

令和3年度南大沢スマートシティ協議会

第4回協議会

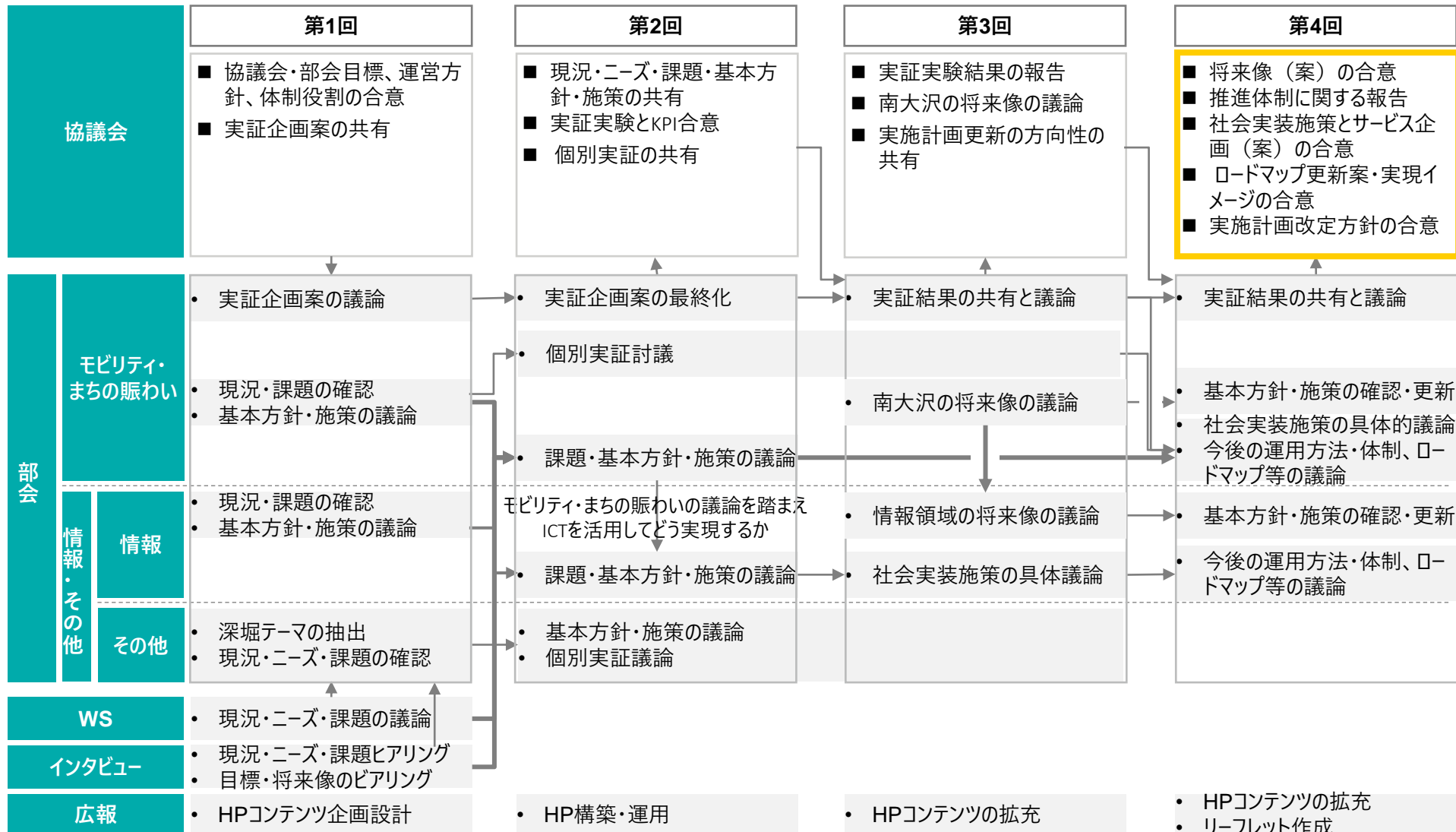
2022年3月11日
(10:30-12:00)

第4回協議会

#	次第
1	開会（東京都）
2	座長挨拶（座長）
3	第3回協議会等の報告
4	将来像（案）の報告
5	推進体制に関する報告
6	社会実装施策とサービス企画（案）の報告
7	ロードマップ更新（案）・実現イメージの報告
8	実施計画改定（案）の報告
9	閉会（東京都）

第4回協議会の位置づけ

第4回協議会では、将来像の本年度案、R5協議会推進体制に関する論点、社会実装施策とサービス企画の本年度案、ロードマップと実現イメージの本年度案、スマートシティ実施計画の改定方針について、報告を行い合意や認識のすり合わせを図ります



※部会は必要に応じて回数変更や合同開催等、柔軟に開催・運営する

第3回協議会の振返り（1/2）

前回協議会で委員の皆様からいただいた意見を今後の協議会運営に生かしてまいります

	委員らからのご意見	協議会としての対応
実証実験	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実証実験を<u>継続的に実施し、住民や来街者へ認知度を高める</u>必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次年度も実証実験等を実施し、住民や来街者の参加・体験や幅広いPRにより、認知度の向上に努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート結果は、ユーザーの満足度が高い一方、事業者は費用負担を伴う継続に対して消極的である。各取組を、<u>改善しながら継続的に実施し、段階的に事業者に結果を実感していただくことが必要</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケートや協議会等でいただいた意見も踏まえ、各実証内容の十分な評価・検証とともに、実施事業者と協議・改善しながら、参加事業者に実感していただける継続的な実施に努めていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークショップでも、期待する意見をいただいているが、今後は、<u>目的のまちの賑わいの創出や回遊性の向上を日常化する取組が必要</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちの賑わいや回遊性の向上を日常化できる社会実装施策について、各部会で具体的な内容や継続する仕組みを検討していきます。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジョンと3つのコンセプトで構成している点は良い。また、<u>コンセプト間のトーンをそろえて分かりやすくしても良いと考える</u>（「Accessible」（既存ストックや自然へのアクセス）、「Advanced」（新サービスや新商品）、「Academic」（産学公）の3A等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ いただいた意見も参考に、将来のまちの方向性が分かりやすい表現や、伝わりやすく・比較しやすい表現等のコンセプトを検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンセプトの要素の1つである「産学公」は、<u>地域住民の主体的参画の意味を含む「公民学」の表現がふさわしい</u>と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民等の「民」を重視した表記が望ましいと考えるため、「産学公」を「公民学」等に修正します。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジョンの「先端技術のショーケース」は「南大沢固有の取組」にフォーカスしすぎているため、<u>「他地域に水平展開する取組」の意味合いも含めた方が良い</u>と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ いただいた意見も考慮し、部会長やワークショップでの住民・来街者の意見等も踏まえながら、多様なステークホルダーにとって有益な表現のビジョンを検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南大沢は、アウトレットがある街と認識されているため、将来像に<u>アウトレットを含めてもよい</u>と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 将来像のビジョンやコンセプトは、まち全体として目指すべき方向性を検討しているため、個別の施設の表記は控えます。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回協議会で話があったとおり、シーズ先行でプロジェクトを進め、<u>「ビジョンがないことがビジョン」であるとも考えられる</u>。大学・企業のシーズから様々な先端技術を試し、社会実装へと展開するアプローチもあると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第2回協議における、将来像を十分に議論し共通認識を持つことが重要であるとの意見を踏まえ、ビジョンを協議・設定します。また、社会実装の展開に向けて、これまでの住民・来街者等の意見を踏まえたニーズ先行とともに、大学・企業等のシーズ先行の面でも検討していきます。

第3回協議会の振り返り（2/2）

前回協議会で委員の皆様からいただいた意見を今後の協議会運営に活かしてまいります

委員らからのご意見

（会議後の意見）

- ○「ショーケース」として、実証実験だけに留まることのないよう、**事業者が定着・定住するような手立てが必要**である。
- ○ハード・ソフト両面での対策、規制緩和等の対応、プラットフォームの立ち上げ、長期的な運用を確実にを行うために、**安定的な組織体制の構築が必要**である。

協議会としての対応

- 将来のビジョンを見据え、実証実験を評価・検証し、社会実装に向けて改善していくとともに、事業者メリットのPRや新規事業者の受け入れ体制の検討・構築により、事業者の定着・定住を目指します。
- 他地域の事例も参考に、今後、関係者との具体的な調整を踏まえ、産官学が連携した組織体制や持続可能な運用方法等を検討していきます。

将来像



(補足①) まちの賑わい・モビリティ部会の報告

第4回まちの賑わい・モビリティ部会では、スマートシティの推進体制、社会実装施策とサービス企画（案）、ロードマップ更新案・実現イメージについて議論を行いました。サービス企画については、将来像として掲げる「既存ストックの活用」方法を明示すべきやターゲット別にニーズを明確化した上でサービスの具体化を行うべき等の意見がありました

第4回まちの賑わい・モビリティ部会 (2/17)

推進体制

議論
南大沢スマートシティにおいて、事業体はどのような役割を担うべきかについて各プレーヤーの視点から意見交換をさせてください

前提：南大沢SICにおいては民間、大学、行政の3者の協力により事業体を創成すると想定

結論
南大沢スマートシティにおいて、事業体はどのような役割を担うべきか

役割	担当組織	論点
戦略	連携・合意形成	小論点1 議論・合意形成の場を事業体が担うのか、協議会のような任意団体を事業体の外に設けるのか
実行支援	データ連携や専員派遣	南大沢スマートシティ事業体 (N/A)
実行	個別サービス	小論点2 事業体は個別のサービスの提供をするか否か

社会実装施策とサービス企画（案）

サービス企画（案）～（1）オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成施策～

社会実装施策（案）について、社会実装の方向性（案）を踏まえ、サービス内容を具体化します
サービス内容について、新たに追加、修正すべき要素がありましたらご意見をお願いします

前提：南大沢スマートシティにおいて、民間、大学、行政の3者の協力により事業体を創成すると想定

前提：南大沢SICにおいては民間、大学、行政の3者の協力により事業体を創成すると想定

結論
南大沢スマートシティにおいて、事業体はどのような役割を担うべきか

企画概要	サービスイメージ
ターゲット ・南大沢の居住者、通勤・通学者 提供価値 ・自治体・事業者・住民が互いの様々な地域情報を1つのサイトで入手可能 ・オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成が可能 サービス内容 ・地域SNS（デジタルマップ含む）を活用し、自治体や地元メディア運営会社等の既存サイトと連携し、ユーザーの検索、閲覧履歴や検索履歴、空室情報等によるポータルイベント情報の発信、ユーザーによる地域情報の発信、及びコミュニティ形成を実現 ・地域の様々な事業者やサービス・業種を、デジタルサイネージ上でデジタルマップを活用し地域情報の発信を実現 ・匿名を適用したコミュニティスペースを開設し、地域SNS上でオンラインコミュニティに加え、オフラインでのコミュニティ活動を実現 実装場所 ・駅前、商業施設、公共施設（デジタルサイネージ） ・住宅団地（コミュニティスペース）	

ロードマップ更新案・実現イメージ

まちの賑わい領域：領域別の実現イメージ図（案）

まちの賑わい領域における実現イメージ図（案）は以下の通りです

凡例
赤線 既存
青線 新規
黄線 更新

論点

① 既存の道路や施設を有効活用し、新たな機能を追加する
② 既存の道路や施設を有効活用し、新たな機能を追加する
③ 既存の道路や施設を有効活用し、新たな機能を追加する

資料
イメージ

振り返り

- スマートシティ推進事業体の設立に当たっては、**事業体の役割（既存のまちづくりを担っている組織との位置づけの違いの明確化）**や、**サービス内容（ステークホルダーのサービス提供に当たっての費用負担、各サービスの費用対効果）**を検討すべきとの意見あり

- 将来像にある「**既存ストックの活用**」をサービス提供に当たってどのように実現するかを明示すべきとの意見あり
- **空間づくりと実現するためのデータ連携の議論を同時並行で進めるべき**との意見あり
- **ターゲット別にニーズを明確化した上でサービス内容を深掘りすべき**との意見あり
- **ターゲットとして、住民、来街者のバランスを考慮すべき**との意見あり
- サービス一元化に当たっては、**地域固有サービス、グローバルサービスのいずれを活用するか検討が必要**との意見あり

- **電動キックボードシェアリングの実証や実装に際しては、電動シェアサイクルと展開エリア等の調整を行うべき**との意見あり
- AIデマンドバス等の実装に際しては、**既存交通網の役割の見直し等を含め交通政策の一部として検討すべき**との意見あり
- **領域別のイメージ図に、活用する既存ストックを明示すべき**との意見あり

(補足②) 情報・その他部会の報告

第4回情報・その他部会では、スマートシティの推進体制、社会実装施策とサービス企画（案）、ロードマップ更新案・実現イメージについて議論を行いました。推進体制について、まずは幹事となる事業者の決定をすべきとの意見がありました。ICTインフラの方向性については、プラットフォームはオープン型とすべき等の意見がありました

資料
イメージ

第4回情報・その他部会 (3/1)

推進体制 社会実装施策とサービス企画（案） ロードマップ更新案・実現イメージ

議論
南大沢スマートシティにおいて、事業者はどのような役割を担うべきかについて各プレーヤーの視点から意見交換をさせていただきます

前提：南大沢SICにおいては民間、大学、行政の3者の協力により事業者を育成すると想定

結論
南大沢スマートシティにおいて、事業者はどのような役割を担うべきか

役割	該当組織	論点
戦略	連携・合意形成	小論点1 議論・合意形成の場を事業者が持つのか、協議会のような任意団体を事業者の外に設けるのか
実行支援	データ連携や準拠規格 南大沢スマートシティ事業者	(N/A)
実行	個別サービス 民間/行政	小論点2 事業者は個別のサービスの提供をするか否か

ICTインフラの方向性（案）
まちの賑わい領域及びモビリティ領域における社会実装施策の実現に必要なICTインフラの議論を踏まえ、ICTインフラの方向性（案）として、南大沢共通のプラットフォームの整備及び地域共通サイトの設立を提案します

※ユーザーから収集するデータのサービスの連携を想定
検討は次年度以降を想定

ターゲット 南大沢の居住者、通勤・通学者、実住者

サービス 地域ポイントによる回遊性向上施策、MaaSによる複数の交通情報・手段の提供施策、オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成施策

インターフェース 地域ポイントアプリ、MaaSアプリ、地域SNSアプリ、デジタルサイネージ

プラットフォーム (OS) 南大沢地域共通のプラットフォーム

通信・ネットワーク Wi-Fi等（データの伝送において必要な通信環境の整備を想定）

収集データ 地域（自治体）情報、IoTデバイス、各種センサー、位置情報、利用履歴、交通情報、位置情報、IoTデバイス、各種センサー、位置情報

データソース元/IoTデバイス 自治体、教育機関、公園、地域IoT、各種センサー、各種IoTデバイス、各種IoTデバイス、各種IoTデバイス、各種IoTデバイス

情報領域：領域別の実現イメージ図（案）
情報領域における実現イメージ図（案）は以下の通りです

新しいサービスが次々と生まれることで、生活しやすくなる・住み続けられる。既存のインターフェースを利用し、サービス開発に集中できるため導入しやすいためサービス。

サービス: 3Dマップ、サイネージ、MaaSアプリ、地域SNSアプリ、地域ポイントアプリ、デジタルサイネージ

インターフェース: 一元化もしくは相互連携された情報の提供、地域共通のデジタルサービス、デジタルサイネージ

プラットフォーム (OS): 南大沢地域共通のプラットフォーム、エリア内外の様々なデータが連携、行政のオープンデータ、他地域のプラットフォーム

通信・ネットワーク: 南大沢駅前・駅周辺の通信・ネットワーク整備、ローカル5Gは連携した通信環境の提供、都立大の5G環境

IoTデバイス: IoTデバイス取得データ、各種IoTデバイス、各種IoTデバイス、各種IoTデバイス

振り返り

- 事業者を組成する上で率先して動く **幹事となる事業者の決定が不可欠**であり、**幹事となる事業者は地域に根差す企業**とすべきとの意見あり
- また、サービス展開に当たっての規制緩和、**条例の改正等をサポートする役割を行政が担うべき**との意見あり

- プラットフォームで個人情報を保有する場合は**オープン型**とするか等、**次年度以降は個人情報の保有方法に関する具体的な議論が必要**との意見あり
- プラットフォームは、**オープン型とし、多様な事業者がAPI連携可能な仕組みを構築**すべきとの意見あり
- 地域ポイントサービスについて、**継続的な原資の捻出方法の検討や、全国的に導入が進むポイントサービスと連携**すべきとの意見あり
- MaaSサービスについて、**防災や福祉観点でのサービス内容も検討**すべきとの意見あり

- 特段ご意見なし

本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）の本年度案の合意を図ることを目指し、報告を行います

ゴール

- 南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）の本年度案について合意を図る

論点

- 将来像の本年度案として良いか意見を伺う

報告の流れ

- 事務局より将来像に関する議論の振り返り、議論内容を踏まえた将来像（ビジョン・コンセプト）の本年度案を説明した後、質疑応答を行い認識をすり合わせる

■ 将来像に関する議論の振り返り

■ 将来像（ビジョン・コンセプト）の本年度案

将来像に関する議論の振り返り

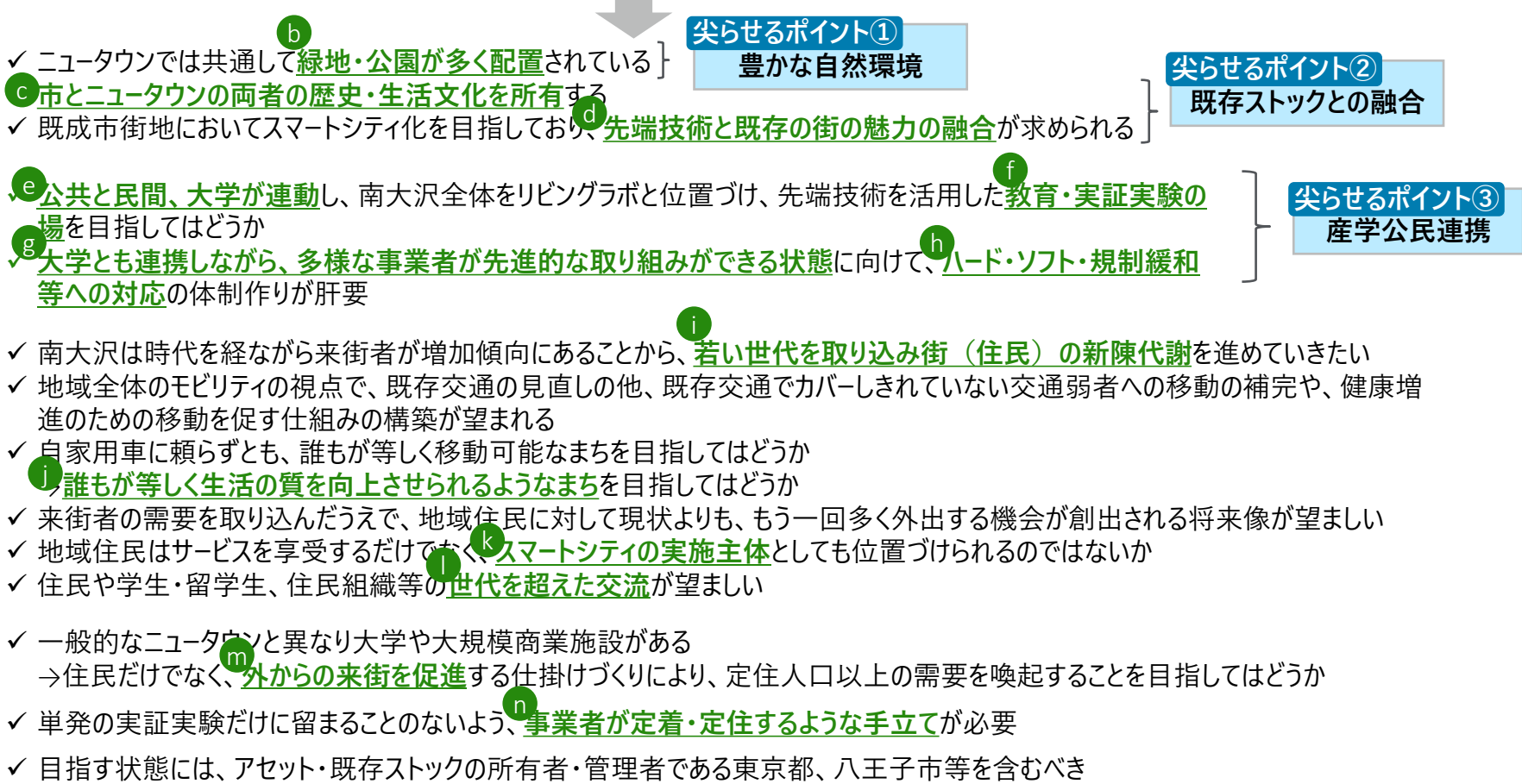
11月14日（火）に開催した将来像検討会や第3回まちの賑わい部会、モビリティ部会、第3回協議会では、「水平展開する共通の特徴」と「南大沢独自の魅力」の二面でのコンセプト策定等、活発な議論を行いました

議論内容のコンセプトへの反映箇所

コンセプトの考え方

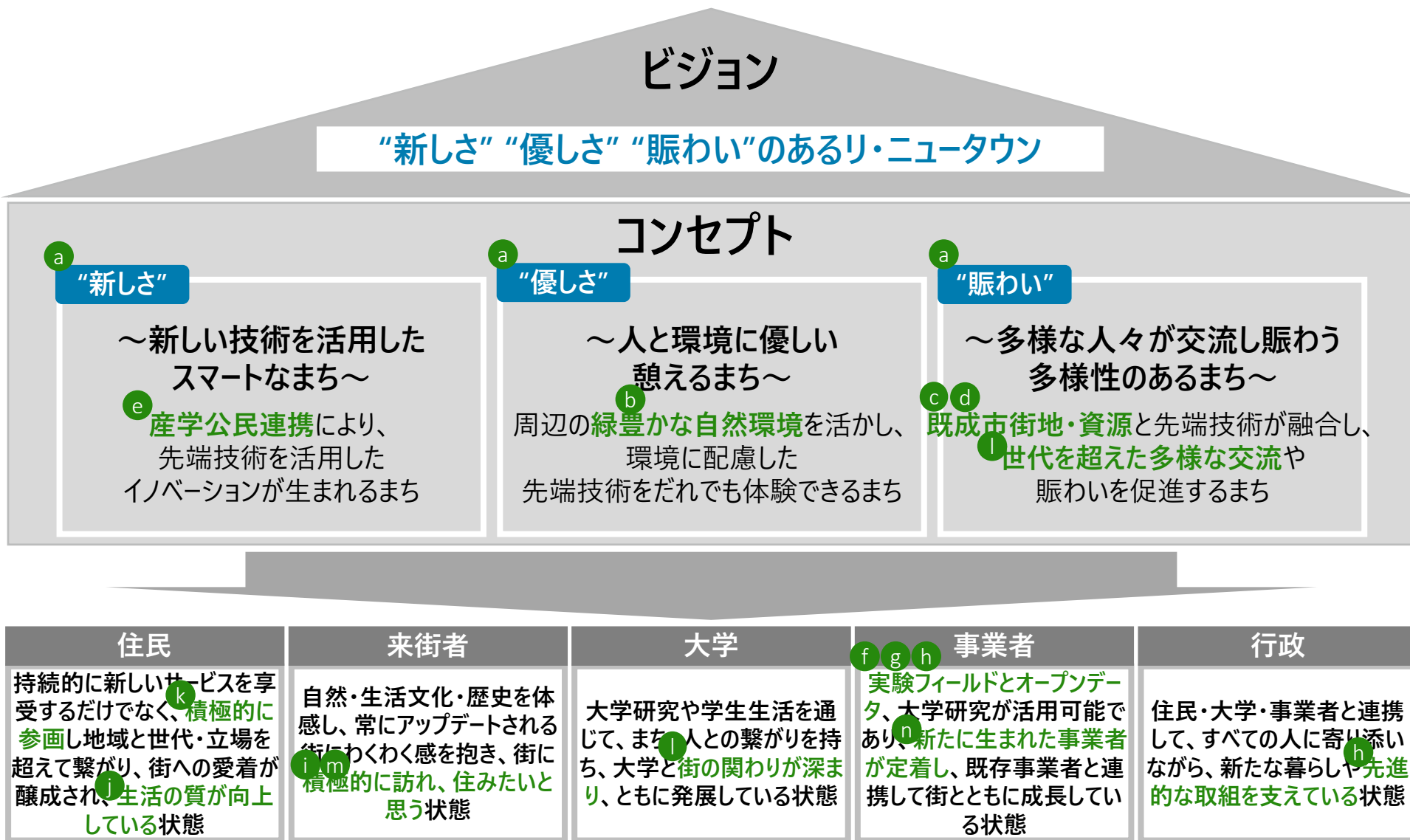
- ✓ 南大沢スマートシティ協議会としてどの方向を向いているのか、**総花的ではなく“尖った”コンセプトの策定**が肝要
- ✓ **水平展開する上での共通の特徴**と、**南大沢独自の魅力**の二面を意識したコンセプトを策定してはどうか
- ✓ **住民や来街者等ユーザーの視点**を含めた定義をすることが望ましい
- ✓ コンセプト間の違いを分かりやすく比較できるように **コンセプトのトーンをそろえる**ことが望ましい
- ✓ **新しいニュータウンを明確化・簡潔に表現**すると良い

コンセプトの要素



南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）（本年度案）

将来像に関する議論内容を踏まえ、南大沢スマートシティのビジョン、コンセプトの本年度案として以下を提案します



本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、R5の協議会推進体制を構築する上での事業者の役割の議論内容の報告を行います

ゴール

- R5年度以降民間・市・大学・東京都が新事業者を立ち上げることを前提として、事業者の役割の方向性について認識を合わせる

論点

- 事業者としてどのような役割を目指すか意見を伺う

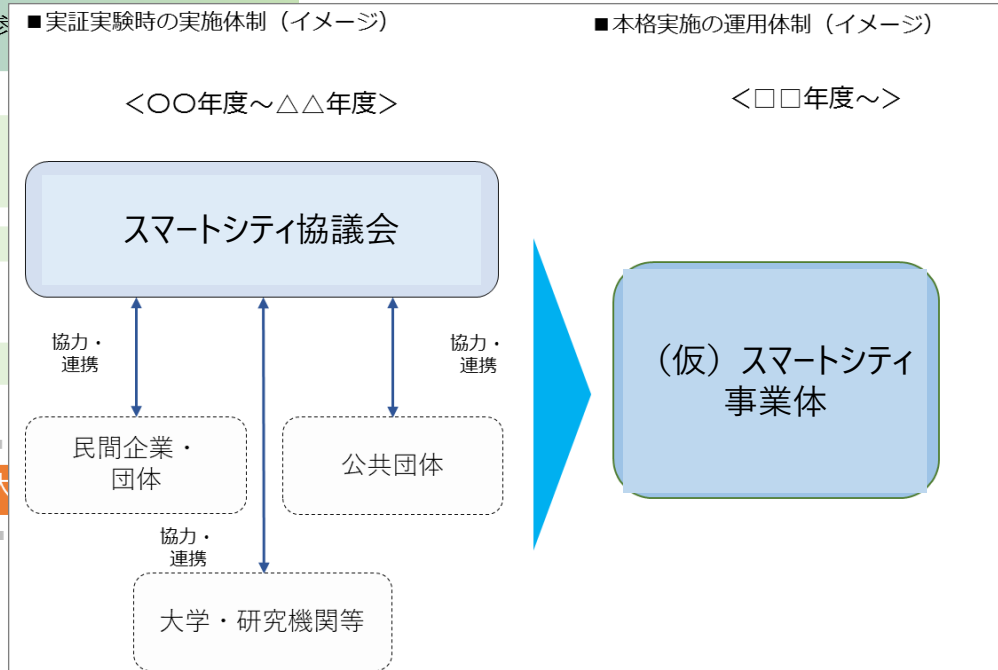
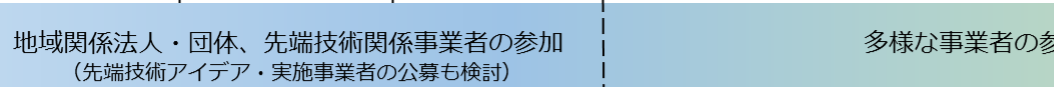
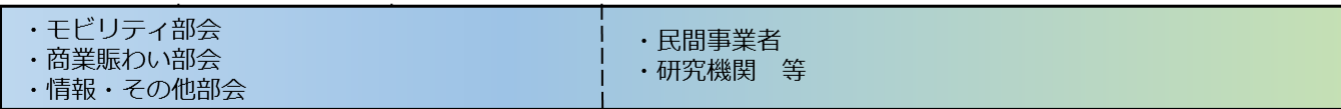
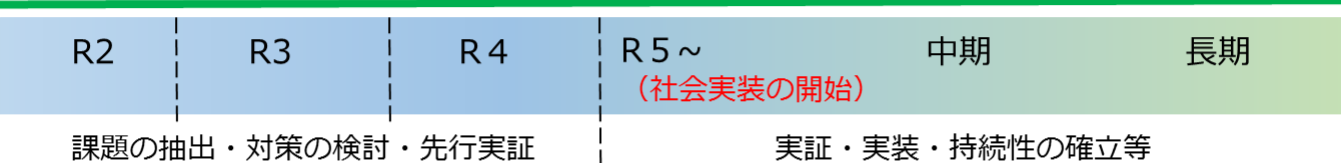
報告の流れ

- 事務局より、昨年度の振り返り、本日のスコープ、本年度の論点である事業者の役割の議論内容を紹介後、質疑応答を行い認識をすり合わせる



- ・実証実験時は地域の関係者等の協力により、任意団体の協議会により実施を行う。
- ・本格実施時は持続性、事業安定性等の面から、社会実装に向けた持続可能な運営体制を検討していく。

実施・運用（概要）



事業体に関する本部会の議論内容・アプローチ

本部会は、R5以降の事業体が、どのような役割を目指すのかについて議論を行います

事業体構築の論点

本年度の議論内容

WHY

✓ 事業体としてどのような役割を目指すのか

WHAT

✓ 何を事業とするのか
✓ 必要な事業体機能は何か

WHO

✓ 誰がどう分担するのか

HOW

✓ どのような組織形態とするか

OTHER

✓ その他事業体構成にあたって何を・どう準備するか

本日の議論アプローチ

事例紹介*

南大沢における
スマートシティ事業体としての
目指す役割を議論

- 柏の葉
- つくば市
- 某地方自治体（地方都市）



- スマートシティの概要
- スマートなまちづくりにおける組織の位置づけ
- 推進体制

✓ 事業体はスマートシティ推進においてどのような役割を目指すのか

*補足

日本国内においては、従来型のまちづくり事業体の運営は複数のエリアで展開されている一方、スマートシティは議論の場としての協議会段階が多く、事業体の構築は目下検討段階となっている

議論

南大沢スマートシティにおいて、事業者はどのような役割を目指すべきかについて各プレイヤーの視点から意見交換をさせてください




: スマートシティ組織

: まちづくり組織

: その他個別組織

前提：南大沢SCにおいては民間、大学、行政の3者の協力により事業者を組成すると仮定

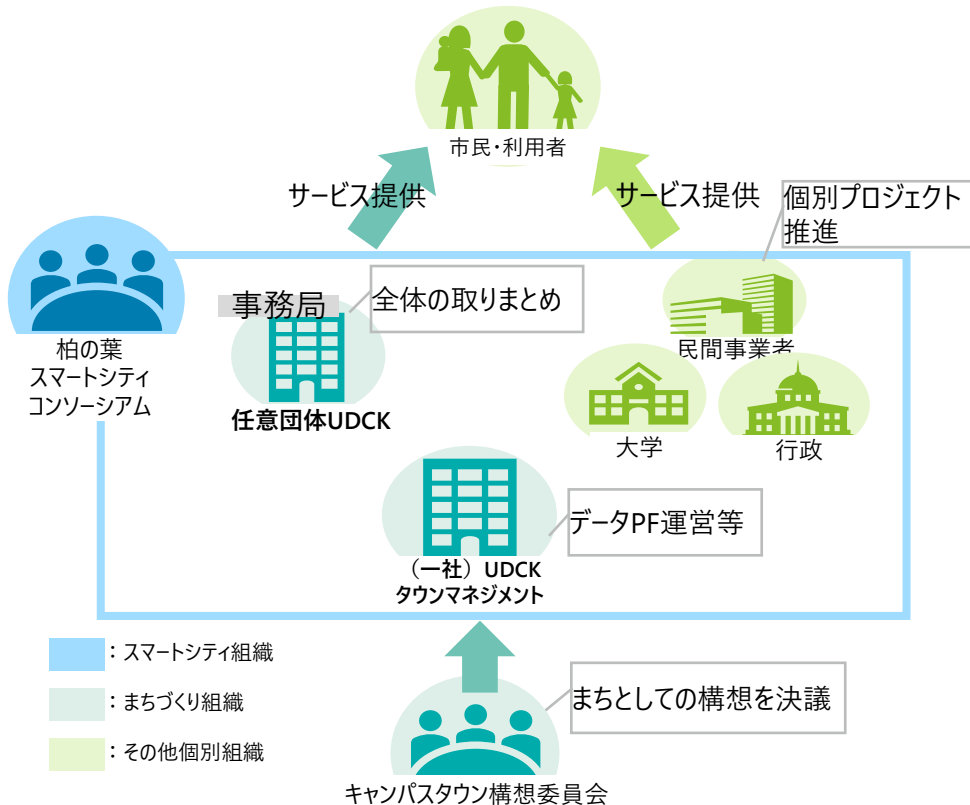
✓ 南大沢スマートシティにおいて、事業者はどのような役割を目指すべきか

役割		事例①柏の葉	事例②つくば市	事例③某地方自治体
 戦略	議論・決議	柏の葉国際キャンパス タウン構想委員会	協議会	協議会
 実行支援	データ連携PF等 共通機能	任意団体UDCK + 一般社団法人UDCK・ 一般社団法人UDCKタウンマネ ジメント	TBD	事業者
 実行	個別サービス	民間/行政	民間/行政	民間/行政

(補足) 事例① 柏の葉：まちづくりの体制

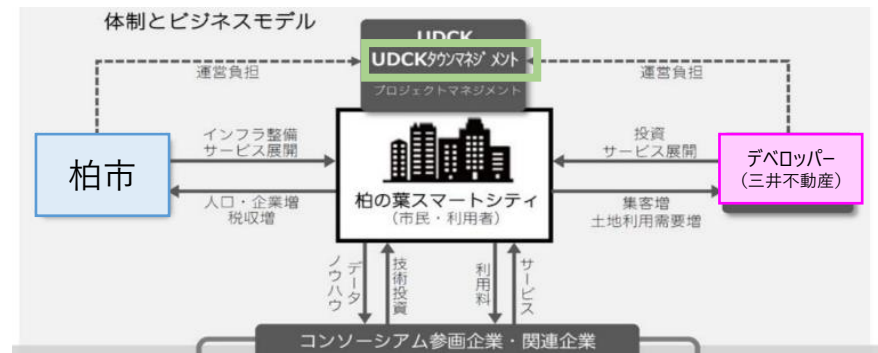
柏の葉においては、キャンパスタウン構想委員会の決議に基づき、スマートシティとしての取組みは任意団体UDCKが事務局を務める柏の葉スマートシティコンソーシアムにて推進しています

事業会社の位置づけ



- ✓ まちづくりの基本事項の決議はキャンパスタウン構想委員会にて実施
- ✓ 柏の葉スマートシティコンソーシアム内にて各事業者がスマートシティの取組みを推進。共通機能となるデータPF運営は第三者機関としての事業体（UDCKタウンマネジメント）が担う

事業会社の体制とビジネスモデル



出典) 柏の葉スマートシティコンソーシアム「柏の葉スマートシティ実行計画」(2020.3)等を基に事務局作成

モビリティ、まちの賑わい、情報・その他部会での意見

2月に第4回モビリティ・まちの賑わい部会、3月に第7回情報・その他部会を実施し、推進体制に関して多様な意見をいただきました

まちの賑わい・モビリティ部会

推進体制 検討の進め方

- ✓ まちづくりを担う組織が体制の中核を担うことが重要と考える。
- ✓ 事業体において既存のまちづくりを担っている組織との位置づけの違いを明確化すべきである。
- ✓ 組織体として事業体を想定する場合は、各ステークホルダーの費用負担や費用対効果を考慮する必要がある。来年度以降、協議会において実証実験の内容や施策の実現性、あるべきサービス内容を議論した上で、事業体の組成を検討すべきである。
 - 令和5年度から事業体を組成するにあたり、令和5年度までのスケジュールを踏まえると事業体の役割とサービス内容を並行して検討することが必要である。

他地域の 事例

- ✓ 柏の葉のUDCKタウンマネジメントは、まちづくりに係る事業体である。一方、柏の葉スマートシティコンソーシアムは、20弱の団体で構成されており、個別のプロジェクトに応じて各事業者が取組を推進している。スマートシティ視点では、柏の葉スマートシティコンソーシアムも参考にしていきたい。

情報・その他部会

- ✓ スマートシティの事業継続に向けては、サービスの事業性が担保される必要があり、事業の収益性を確保するためには、民間事業者が中心的な役割を担い、行政が規制緩和等のサポートの役割を担う役割分担で事業体を組成すべきである。
- ✓ 事業体を組成する際は、他の参画主体に働きかけを行い、率先して取組を推進する主管会社の存在が不可欠と考える。
- ✓ 既成市街地では、地域に根差した企業が主管企業の役割を担う事例が多く、南大沢においても同様の検討が必要である。加えて、行政の参画は、条例の改正や市民への周知の観点から不可欠である。

- ✓ 他地域のスマートシティでは、実行機能と合意形成機能を分割している事例が多く、取組を推進する主幹企業の存在が不可欠である。
- ✓ さいたま市の事例では、一般社団法人美園タウンマネジメントが事業会社としてシステムの運営を担う一方、大学や行政等が参画する美園タウンマネジメント協会が意思決定の役割を担っている。協議会等の任意団体が意思決定を行い、事業体の実行支援を行う役割分担は、参考事例が多く、比較的導入が容易な形態と認識している。

本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、社会実装施策及びそのサービス企画の本年度案について合意を図ることを目的に、報告を行います

ゴール

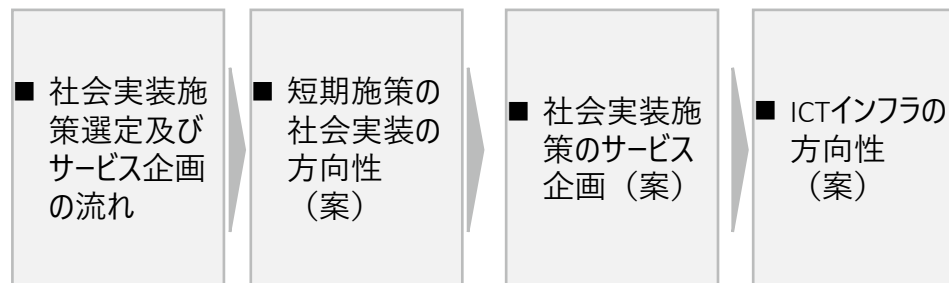
- 社会実装施策及びそのサービス企画案について合意を図る

論点

- 社会実装施策及びそのサービス企画案の妥当性、補足・改善箇所について意見を伺う

報告の流れ

- 社会実装施策選定及びサービス企画の流れ、短期施策の社会実装の方向性（案）、社会実装施策のサービス企画（案）、ICTインフラの方向性（案）を説明後、質疑応答を行い認識をすり合わせる

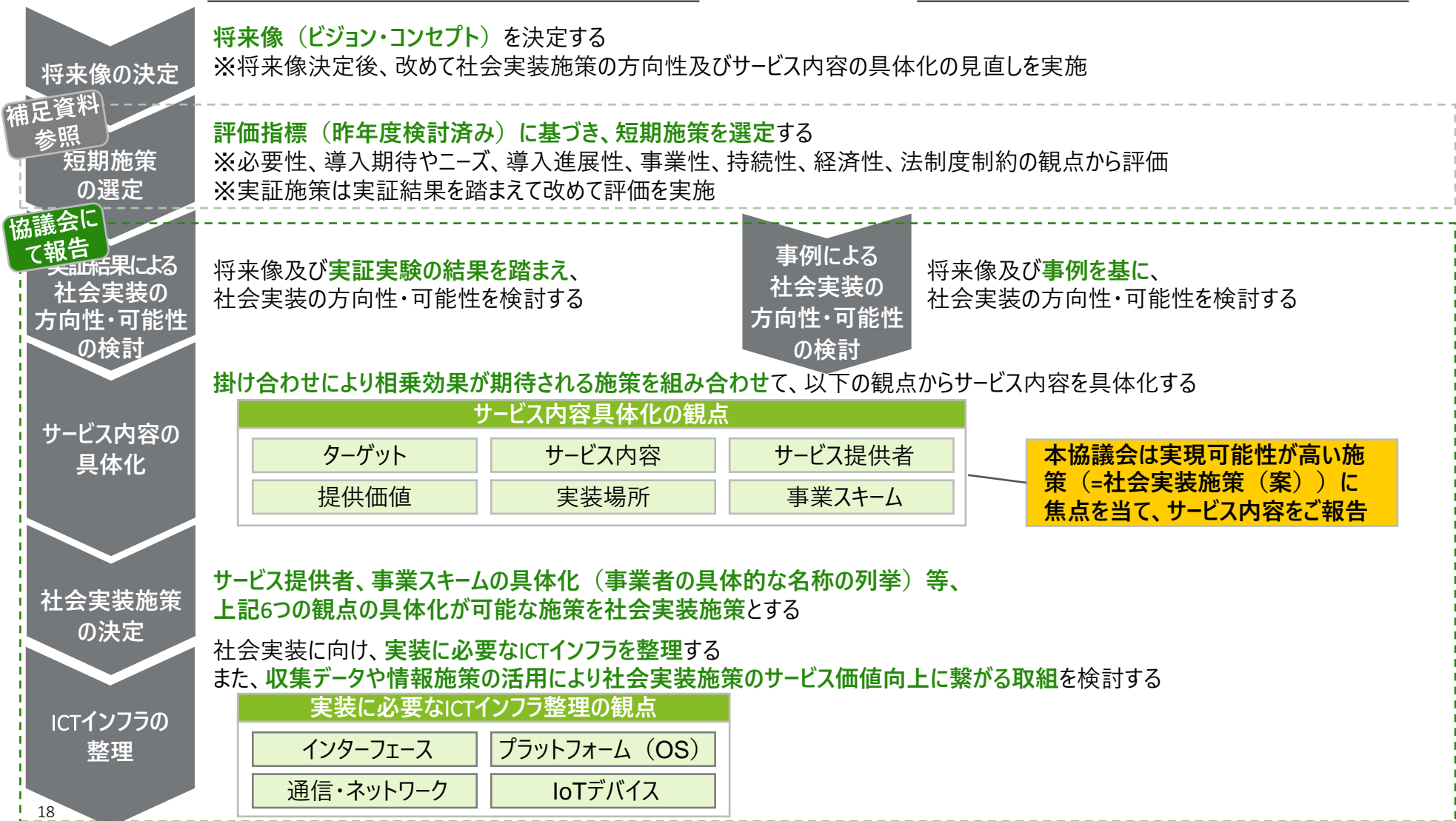


社会実装施策の選定及びサービス企画の流れ

昨年度評価結果に基づく短期施策について社会実装の方向性（案）を検討した後、実現可能性が高いと考える社会実装施策（案）についてサービス内容の具体化及び実装に必要なICTインフラの整理を行います

①今年度実証施策

②その他の短期施策



短期施策の社会実装の方向性・可能性（案）

①実証結果を基に検討した社会実装の方向性と②関連事例を基に検討した社会実装の方向性を整理し、社会実装の可能性を考察します

本年度の判断の観点	
ターゲット・提供価値・サービス内容	: 具体内容（案含む）の有無
サービス提供者・事業スキーム	: 実施主体（候補含む）の有無
実装場所	: 実装場所（候補含む）の有無

		社会実装の方向性（案）	社会実装可能性	
まちの賑わい領域	地域コミュニティの形成	<p>② 地域コミュニティサイト・スペース</p> <p>② 地域SNS</p> <p>② デジタルサイネージ</p> <p>① デジタルマップ</p>	<p>(1) オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成施策</p> <p>地域SNS（デジタルマップ含む）を活用した、自治体・事業者・住民による地域情報の発信や交換、オンラインコミュニティの形成と、コミュニティスペースを活用したオンライン・オフライン融合のコミュニティイベントの開催、地域SNS掲載情報のデジタルサイネージ上での地域一体となった発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■【ターゲット・提供価値・サービス内容：△】サービスの具体的な企画案あり。今年度実証の事業者等を中心に内容の調整を開始 ■【サービス提供者・事業スキーム：△】実施主体となり得る候補者（地域SNS運営事業者）から参加意向あり。今後実施スキーム等の検討・調整が必要 ■【実装場所：△】協議会メンバーの事業者が所有する住宅団地の空きスペース等が候補としてあり
	まち全体の情報発信	<p>① デジタルスタンプラリー</p> <p>① デジタルタイムセール</p> <p>② 地域ポイント</p>	<p>(2) 地域ポイントによる回遊性向上施策</p> <p>ウォーキング等の外出時の移動や地域活動、デジタルスタンプラリー等のイベントへの参加に伴う地域ポイントの付与と貯まったポイントのデジタルタイムセール参加店舗等での利用を可能とするアプリを活用したサービスの提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■【ターゲット・提供価値・サービス内容：△】サービスの具体案を企画、今年度実証の事業者等を中心に内容の調整開始 ■【サービス提供者・事業スキーム：○】今年度実証の事業者の継続意向あり。地域ポイントと連携したサービス拡大の可能性あり ■【実装場所：○】上記の事業者がサービスを展開する実装場所あり
	地域資源の最大限活用	<p>② XR活用</p>	<p>公園等で、MR活用によるリアルとバーチャルを融合した街の歴史や四季の景色の再現を行うイベントを提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■【ターゲット・提供価値・サービス内容：△】サービスの具体的な企画あり。 ■【サービス提供者・事業スキーム：×】実施主体となる候補なし ■【実装場所：×】実装場所の提供先となる候補なし
	効率的な買い物、物流サービス	<p>② 店舗、施設内の混雑情報提供</p> <p>② 宅配ロッカー/宅配ボックス</p>	<p>AIカメラを活用した混雑情報の可視化とWEBサイトやデジタルサイネージを通じたリアルタイム情報の提供</p> <p>戸建て住宅や団地へのIoT宅配ボックス設置による再配達を削減するサービスの提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■【ターゲット・提供価値・サービス内容：△】サービスの具体的な企画あり。 ■【サービス提供者・事業スキーム：×】実施主体となる候補なし ■【実装場所：×】実装場所の提供先となる候補なし

短期施策の社会実装の方向性・可能性（案）

①実証結果を基に検討した社会実装の方向性と②関連事例を基に検討した社会実装の方向性を整理し、社会実装の可能性を考察します

本年度の判断の観点

ターゲット・提供価値・サービス内容 : 具体内容（案含む）の有無
 サービス提供者・事業スキーム : 実施主体（候補含む）の有無
 実装場所 : 実装場所（候補含む）の有無

		社会実装の方向性（案）	社会実装可能性の考察
モビリティ領域	エコ・フレンドリーかつ多様な移動ニーズへの対応	<p>② 電動キックボードシェアリング</p> <p>① 電動シェアサイクル</p>	<p>■【ターゲット・提供価値・サービス内容：△】サービスの具体的な企画案あり。今年度実証の事業者等を中心に内容の調整開始</p> <p>■【サービス提供者・事業スキーム：△】実施主体として調整中である鉄道事業者が候補としてあり。また、ピッチイベント優勝の電動キックボードシェアリング事業者や本年度実証の電動シェアサイクル事業者が候補としてあり</p> <p>■【実装場所：△】上記鉄道事業者や電動シェアサイクル事業者が事業を展開する場所が候補としてあり</p>
	リアルタイム交通情報	<p>① MaaS</p> <p>（3）MaaSによる複数の交通情報・手段の提供施策</p> <p>MaaSを活用した多様な決済手段を持つ電動シェアモビリティサービスの提供や、各種特典・サービスの提供、交通情報の発信</p>	

サービス企画（案）～（1）オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成施策～

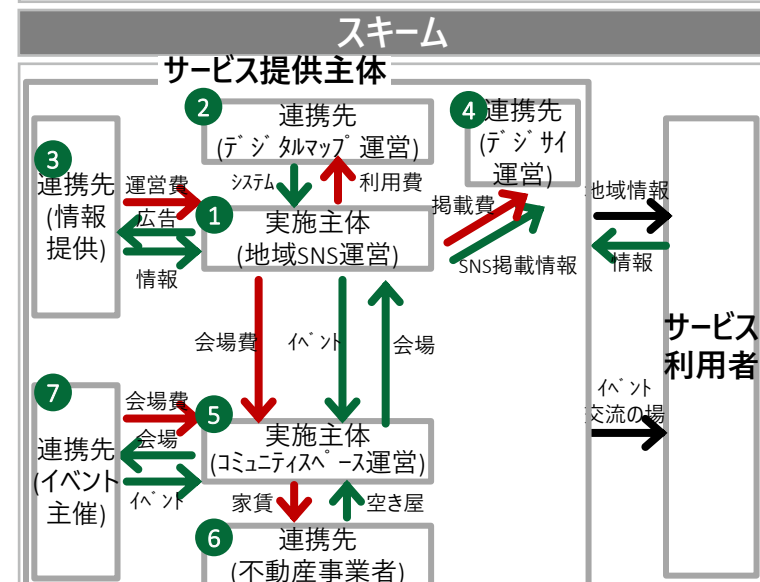
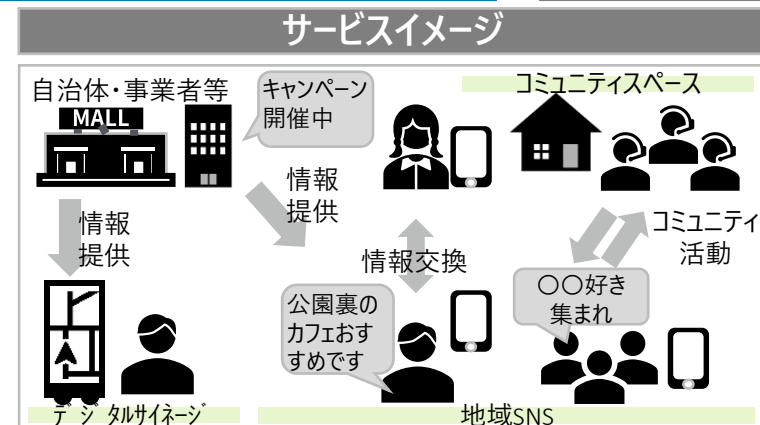
社会実装の方向性（案）を踏まえ、サービス内容を具体化します

方向性（案）

地域SNS（デジタルマップ含む）を活用した、自治体・事業者・住民による地域情報の発信や交換、オンラインコミュニティの形成と、コミュニティスペースを活用したオンライン・オフライン融合のコミュニティイベントの開催、地域SNS掲載情報のデジタルサイネージ上での地域一体となった発信

凡例
→：サービス
→：金
→：その他

企画概要		
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 南大沢の居住者、通勤・通学者 	
提供価値	<ul style="list-style-type: none"> 自治体・事業者・住民からの様々な地域情報を1つのサイトで入手可能 オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成が可能 	
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域SNS（デジタルマップ含む）を活用した、自治体や地域メディア運営会社等の既存サイトと連携したニュースの発信、商業施設や鉄道会社、公園管理者等によるスポットやイベント情報の発信、ユーザーによる地域情報の発信、及びコミュニティ形成を実現 地域SNS掲載情報をデジタルサイネージに掲載し、デジタルサイネージ上でのデジタルマップを活用した地域情報の発信を実現 空き屋を活用したコミュニティスペースを開設し、地域SNS上でのオンラインコミュニティに加え、オフラインでのコミュニティ活動を実現 	
実装場所	<ul style="list-style-type: none"> 駅前、商業施設、公共施設（デジタルサイネージ）、住宅団地（空き屋） 	
サービス提供者	<ol style="list-style-type: none"> 実施主体 	地域SNS運営事業者
	<ol style="list-style-type: none"> マップ提供 	デジタルマップ運営事業者
	<ol style="list-style-type: none"> 情報提供 	自治体、商業施設運営事業者、鉄道事業者、公園管理者、地域メディア運営事業者、その他地域の事業者
	<ol style="list-style-type: none"> デジサイ運営 	デジタルサイネージ運営事業者
	<ol style="list-style-type: none"> 実施主体 	コミュニティスペース運営事業者
	<ol style="list-style-type: none"> 空き家提供 	自治体、不動産事業者
	<ol style="list-style-type: none"> イベント主催 	自治体、地元事業者、地域団体等



サービス企画（案）～（3）MaaSによる複数の交通情報・手段の提供施策～

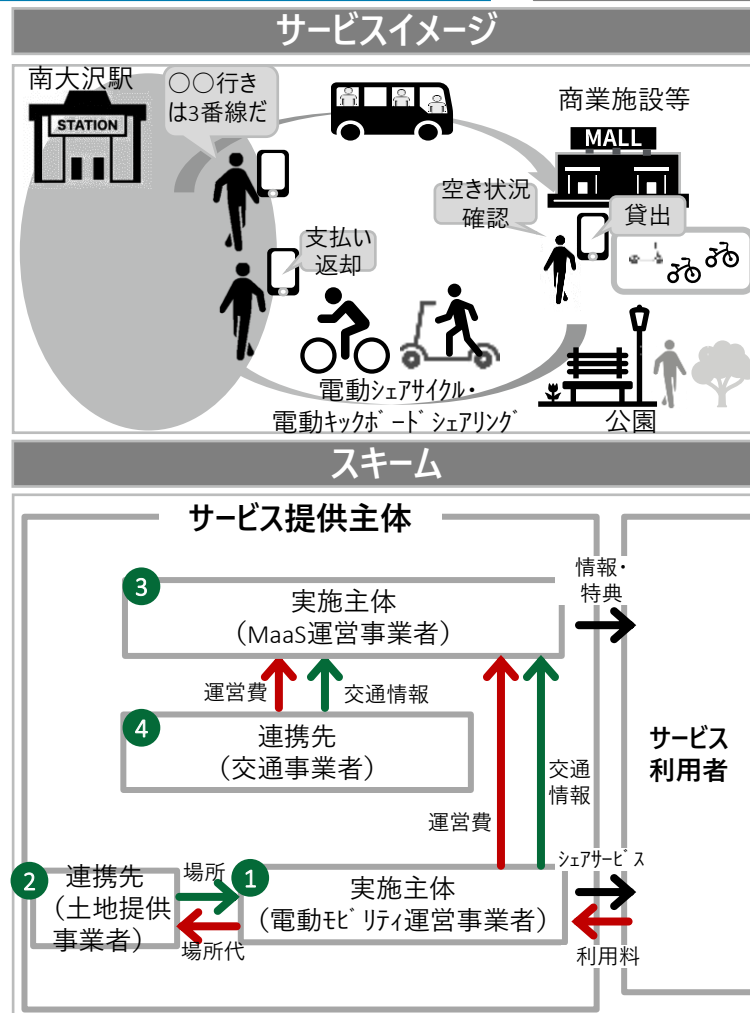
社会実装の方向性（案）を踏まえ、サービス内容を具体化します

方向性（案）

MaaSを活用した多様な決済手段を持つ電動シェアモビリティサービスの提供や、各種特典・サービスの提供、交通情報の発信

凡例
→：サービス
→：金
→：その他

企画概要	
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 南大沢の居住者、通勤・通学者 南大沢への来街者
提供価値	電動モビリティ <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷に配慮した移動手段を選択可能 既存の交通基盤では不足する横移動手段の補完
	MaaS <ul style="list-style-type: none"> 即時性のある交通情報を入手可能 シームレスな乗換が可能
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> 駅前や駅周辺の主要スポット、住宅団地に電動モビリティのシェアポートを整備。サービス利用者は、MaaSを活用して空き状況の確認や事前予約、貸出・返却手続き、支払いが可能 その他、MaaS上では各種交通機関の運行情報や乗り継ぎ情報等、南大沢駅周辺の交通情報をリアルタイムに発信
実装場所	電動モビリティ <ul style="list-style-type: none"> 駅前ロータリー、駅周辺の主要スポット（商業施設、公園、公共施設等）、住宅団地
	MaaS <ul style="list-style-type: none"> N/A
サービス提供者等	①実施主体 電動シェアサイクル運営事業者、電動キックボードシェアリング運営事業者
	②連携先 自治体、不動産事業者、商業施設運営事業者 等
	③実施主体 MaaS運営事業者
	④連携先 鉄道事業者、バス運営事業者



本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、社会実装施策を踏まえたロードマップ更新案及び領域別実現イメージ図について合意を図ることを目的に、報告を行います

ゴール

- 社会実装施策を踏まえたロードマップ更新（案）及び実現イメージ図について合意を図る

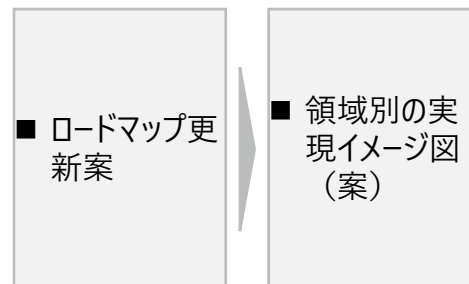
論点

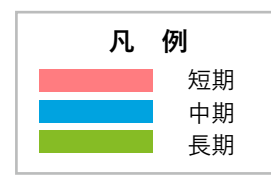
- ロードマップ更新（案）及び実現イメージ図について、妥当性や変更箇所について意見を伺う

報告の流れ

- 事務局より、領域別にロードマップ更新案及び実現イメージ図（案）を説明後、質疑応答を行い認識をすり合わせる

領域別

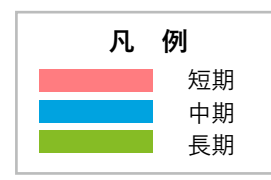




まちの賑わい領域：ロードマップ更新案（1/2）

まちの賑わい領域におけるロードマップ更新（案）は以下の通りです





まちの賑わい領域：ロードマップ更新案（2/2）

まちの賑わい領域におけるロードマップ更新（案）は以下の通りです

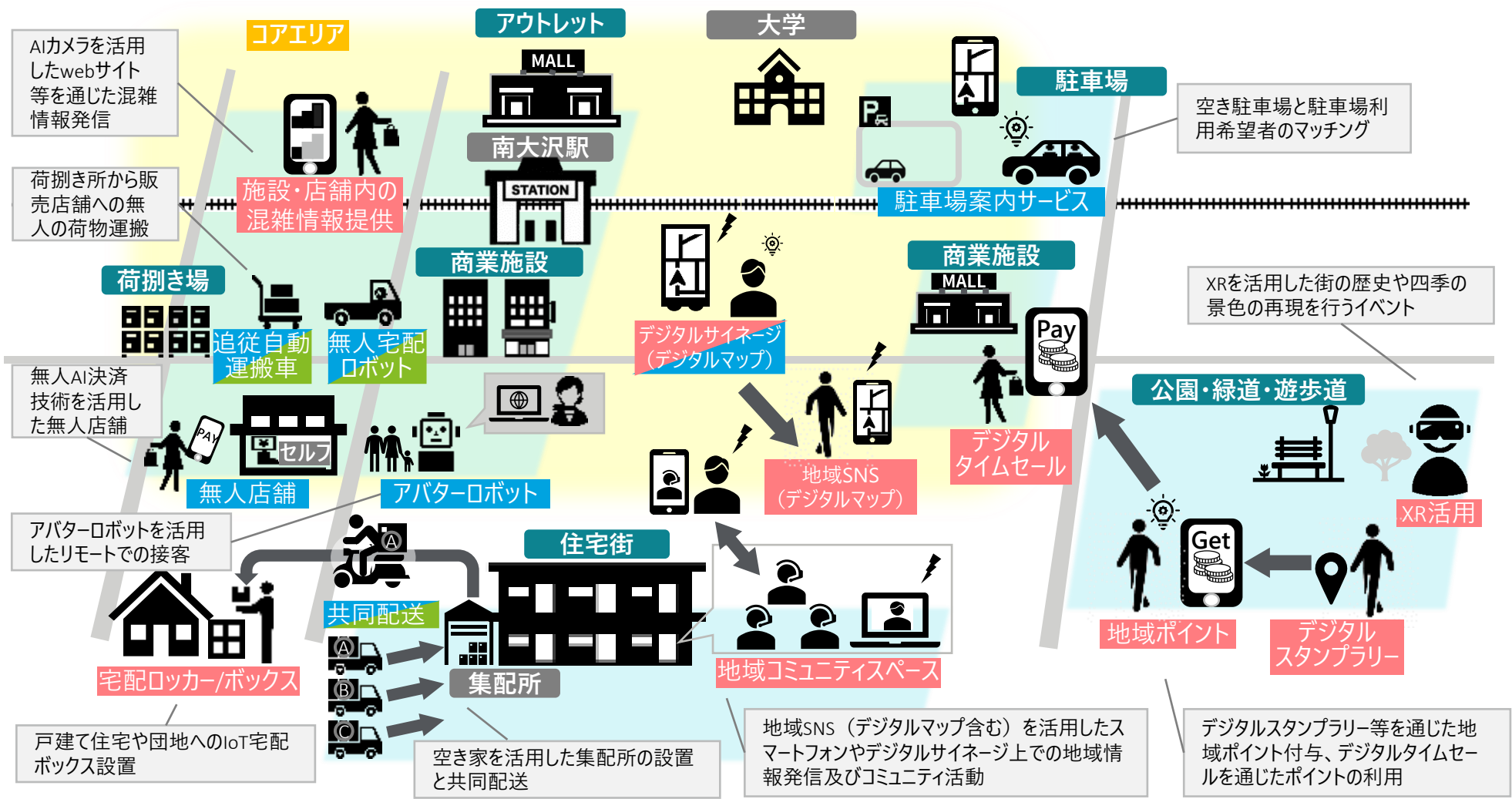


※本ロードマップは、現時点での案を整理したものであり、今後の技術・サービスの進展、社会環境、実施事業者や地元関係者との詳細調整等により、具体的な時期・内容については必要に応じて適宜変更する

まちの賑わい領域：領域別の実現イメージ図（案）

まちの賑わい領域における実現イメージ図（案）は以下の通りです

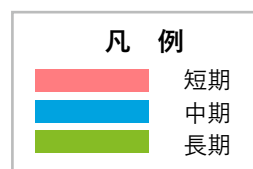
凡 例	
■	短期
■	中期
■	長期
■	活用する既存ストック
■	既存ストックを活用するサービス範囲



※本実現イメージ図は、現時点での案を整理したものであり、今後の技術・サービスの進展、社会環境、実施事業者や地元関係者との詳細調整等により、具体的な時期・内容については必要に応じて適宜変更する

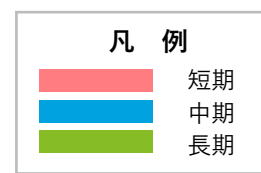
モビリティ領域：ロードマップ更新案（1/2）

モビリティ領域におけるロードマップ更新（案）は以下の通りです



モビリティ領域：ロードマップ更新案（2/2）

モビリティ領域におけるロードマップ更新（案）は以下の通りです



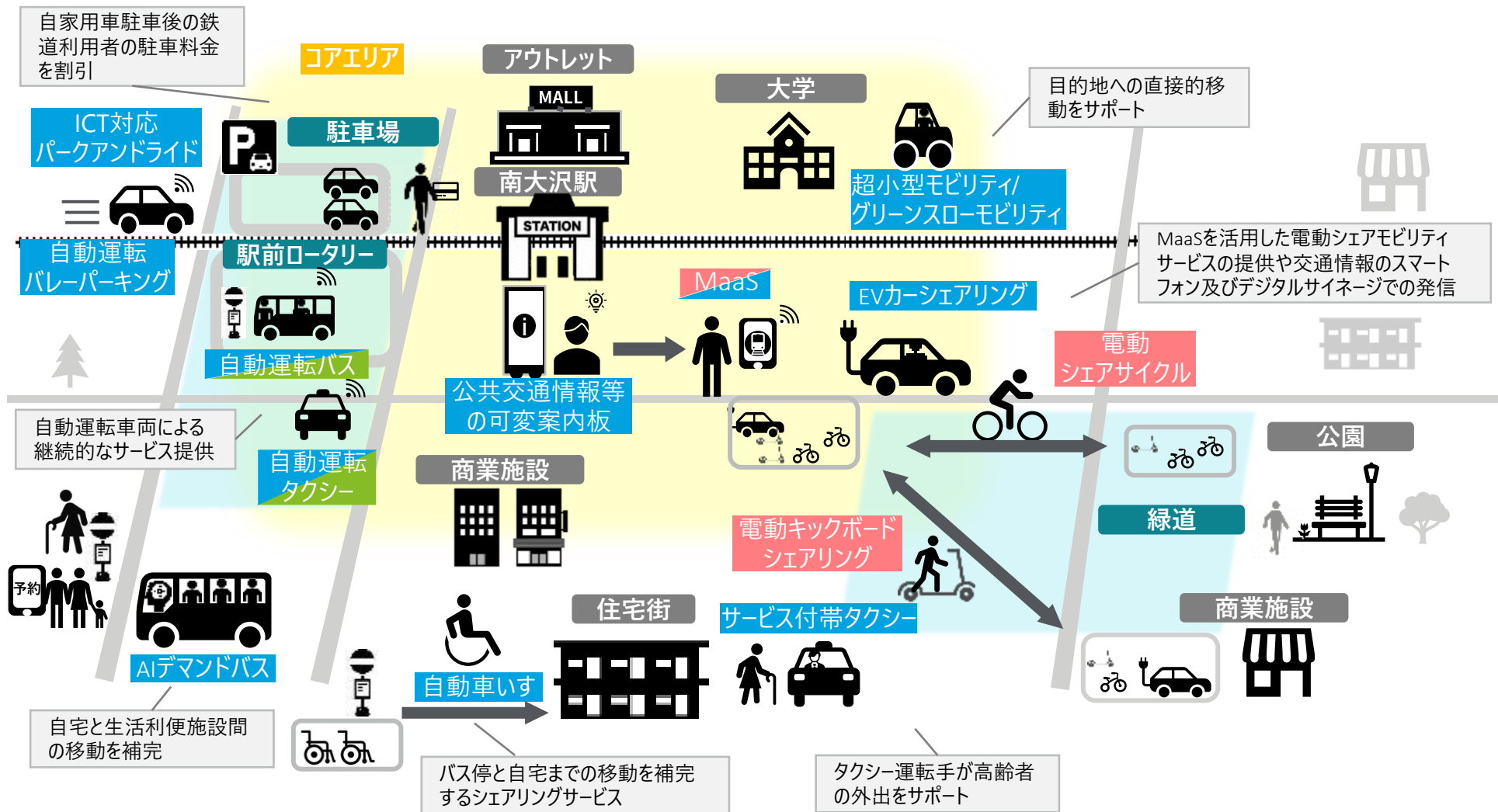
※本ロードマップは、現時点での案を整理したものであり、今後の技術・サービスの進展、社会環境、実施事業者や地元関係者との詳細調整等により、具体的な時期・内容については必要に応じて適宜変更する

※公共交通情報の可変案内板、グリーンスローモビリティ、サービス付帯タクシー、AIデマンドバス、自動運転バス、自動運転タクシー等については、今後、地域の潜在ニーズの把握を行った上で、既存交通を含めた地域交通施策としての社会実装化を別途検討していく

モビリティ領域：領域別の実現イメージ図（案）

モビリティ領域における実現イメージ図（案）は以下の通りです

凡 例	
■	短期
■	中期
■	長期
■	活用する既存ストック
■	既存ストックを活用するサービス範囲



※本実現イメージ図は、現時点での案を整理したものであり、今後の技術・サービスの進展、社会環境、実施事業者や地元関係者との詳細調整等により、具体的な時期・内容については必要に応じて適宜変更する

情報領域：ロードマップ更新案

情報領域におけるロードマップ更新（案）は以下の通りです

凡 例

- 短期
- 中期
- 長期

年度	短期				中期	長期		
	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)		~2030 (R12)	~2040 (R22)		
まちの賑わい及びモビリティ領域の短期施策に関わるICTインフラ デジタルサイネージ オンライン・オフライン融合のコミュニティ形成施策 地域IoTによる回遊性向上施策 店舗、施設内の混雑情報提供 XR活用 宅配ロッカー/ボックス MaaSによる複数の交通情報・手段の提供施策	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装	
	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装	
	協議会検討	協議会検討	事業者調整	構築・実装準備	社会実装			
	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装		
	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装	
	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装	
	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装	
まちの賑わい及びモビリティ領域の中長期施策に関わるICTインフラ アバターロボット 無人店舗 無人宅配ロボット 可変案内板 AIデマンドバス サービス付帯タクシー 自動車いす 自動運転バレーパーキング 自動運転バス 追従自動運搬車 駐車場案内サービス 共同配送 自動運転タクシー EVカーシェアリング ICT対応パーク&ライド 超小型モビリティ グリーンスローモビリティ	5G	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装
	スマートポール	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装
	3Dマップ	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装
	その他のICTインフラ	ビーコンセンサー	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装
	LPWA	協議会検討	協議会検討	事業者調整	実証実験	検証・分析	実装準備	社会実装

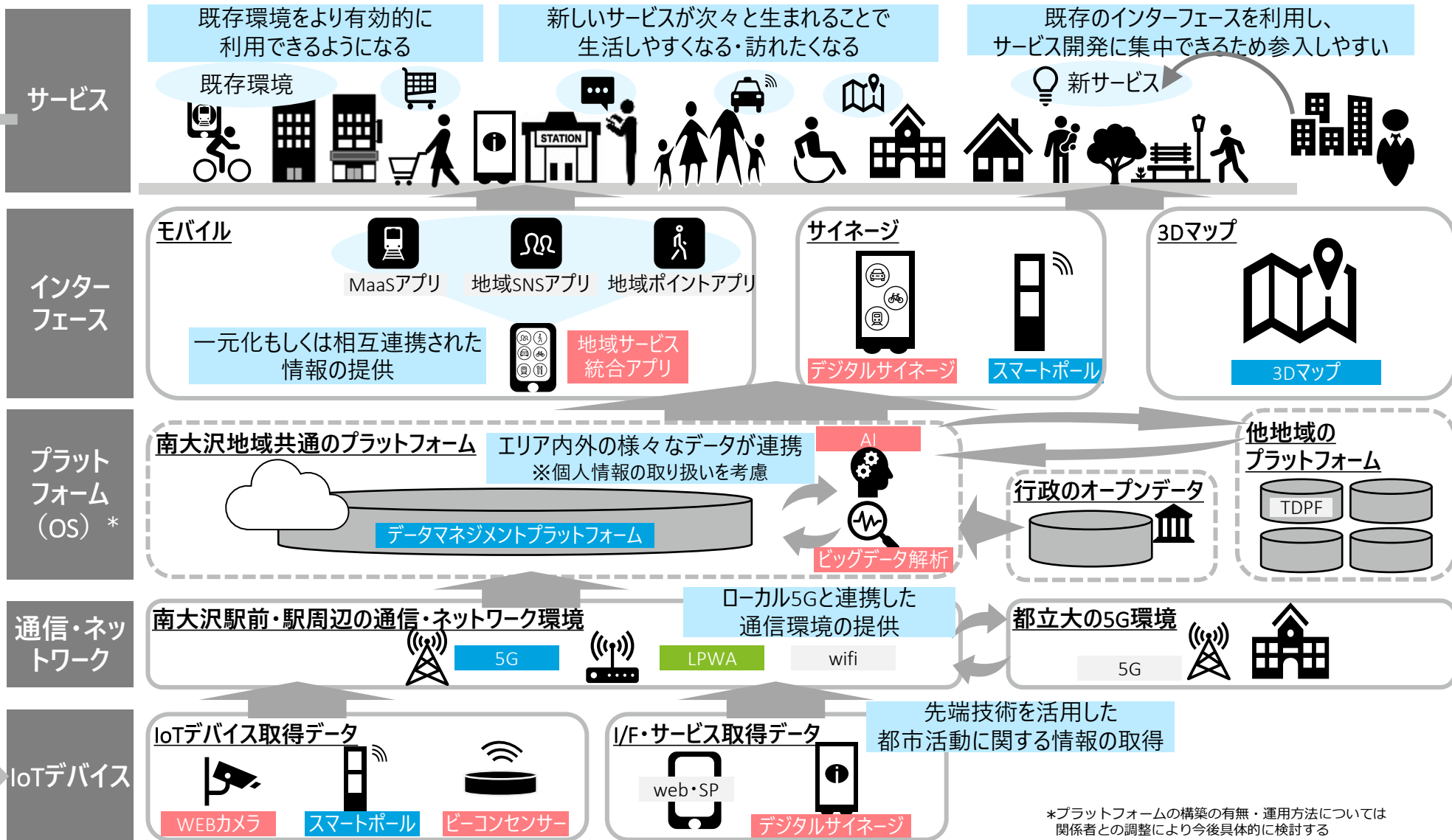
31 ※本ロードマップは、現時点での案を整理したものであり、今後の技術・サービスの進展、社会環境、実施事業者や地元関係者との詳細調整等により、具体的な時期・内容については必要に応じて適宜変更する

情報領域：領域別の実現イメージ図（案）

情報領域における実現イメージ図（案）は以下の通りです

凡 例

- 短期
- 中期
- 長期
- 活用する既存ストック
- 既存ストックを活用するサービス範囲



*プラットフォームの構築の有無・運用方法については関係者との調整により今後具体的に検討する

本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、実施計画の改定（案）の方針について、意見を伺うことを目的に、ご報告を行います

ゴール

- 実施計画の改定（案）の方針をすり合わせる

論点

- 実施計画の改定（案）の方針について意見を伺う
（別途、実施計画（全編）を配布し、意見聴取を行う）

報告の流れ

- 事務局より、改定（案）概要をご説明した後、質疑応答を行い認識をすり合わせる

- 改定概要
（別紙に実施計画
改定資料掲載）

実施計画構成（案）

昨年度の実施計画をベースに、後半部分を中心に章構成を一部修正しています

XX :改定内容

R2年度 実施計画（V1）	
章	内容
1. 概要	• 背景・目的や本協議会の対象範囲、検討の流れ
2. 地域の現況	• 地域の概況とテーマ別の現況を提示
3. 地域のニーズ	• 住民・来街者へwebアンケートを実施した結果を提示
4. 地域の将来動向・計画	• テーマ別に東京都・八王子市の将来計画を提示
5. 地域の課題	• テーマ別に現況・ニーズ・将来動向を踏まえて課題を整理
6. スマートシティの目標・方向性と基本方針	• スマートシティの目標・方向性と基本方針
7. 先端技術を活用した具体施策（案）	• 具体施策の一覧と活用イメージを整理
8. 地域の将来像とロードマップ	• テーマごと・全体の施策の実装イメージとロードマップを整理
9. 実施・運用体制	• 実施・運用体制の方針と他都市における事例を類型化
10. 実証実験	• R2年度の実証実験の内容・結果
11. 今後の課題	• 社会実装に向けた課題

R3年度 実施計画（V2）		
分類	章	更新方針
変更	1. 概要	✓ 対象範囲や検討の流れを本年度版に更新 ✓ 検討テーマの説明を追加
	2. 地域の現況	✓ 追加調査内容を追加
	3. 地域のニーズ	✓ 住民を中心とした全3回のワークショップと地域の事業者向けのインタビュー結果を追記
	4. 地域の将来動向・計画	✓ 南大沢の計画を追記 ✓ 本年度改定する計画を反映
	5. 地域の課題	✓ 本年度の現況・ニーズ・将来動向調査を踏まえ更新
	6. スマートシティの将来像と基本方針	✓ スマートシティの目標・方向性をスマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）に差替
	7. 先端技術を活用した具体施策	✓ 本年度検討の新たな施策を追加 ✓ R5で社会実装を予定する施策を具体化
	9. 実現イメージとロードマップ	✓ 本年度の追加施策を踏まえ実現イメージとロードマップを更新
	10. 実施・運用体制	✓ R5以降の実施・運用体制構築に向けた論点を追加
	8. 実証実験	✓ R3年度の実証実験の内容・結果を追加
	11. 今後の課題	✓ 本年度の議論内容を踏まえ次年度以降の協議会課題を更新
新規作成	参考：先端事例	✓ 他都市の事例を巻末に追加

実施計画改定ポイント (1/8)

1章では、本年度新たに拡張した対象範囲のページの差替え、検討の流れの更新、検討テーマの説明資料の新規作成を行います。
2章では、本年度追加調査した現況の追加や昨年度の現況の最新化・再整理を行います

1章 概要

改定ポイント

- ✓ 対象範囲を駅から1.5km圏内に拡大

- 1-1 背景・目的
- 1-2 対象範囲
- 1-3 検討の流れ
- 1-4 検討テーマ

2章 地域の概要

改定ポイント

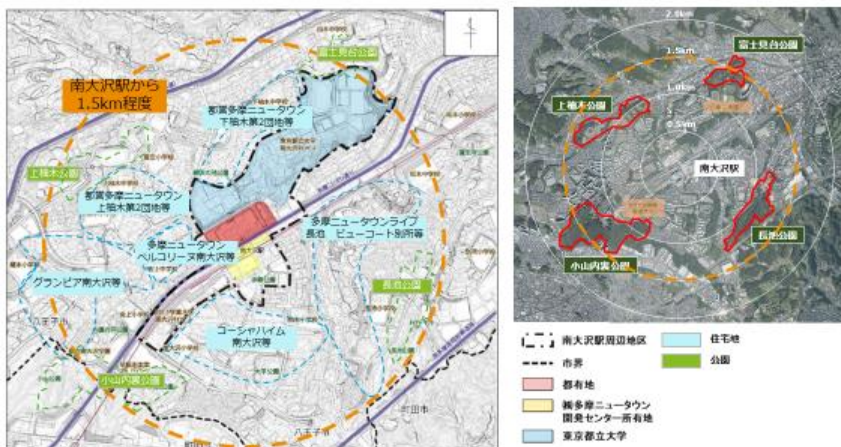
- ✓ 新たな現況を追加
- ✓ 昨年度の現況を最新化・再整理

- 2-1 地域の概況
- 2-2 交通（モビリティ）の現況
- 2-3 まちの賑わいの現況
- 2-4 情報・その他の現況

1-2 対象範囲

3

・昨年度までの対象範囲を基本とし、周辺の公園等の地域資源や住宅団地を含むエリア（1.5km程度）へ対象範囲を拡大し検討を行う



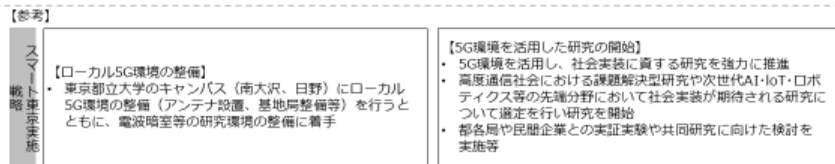
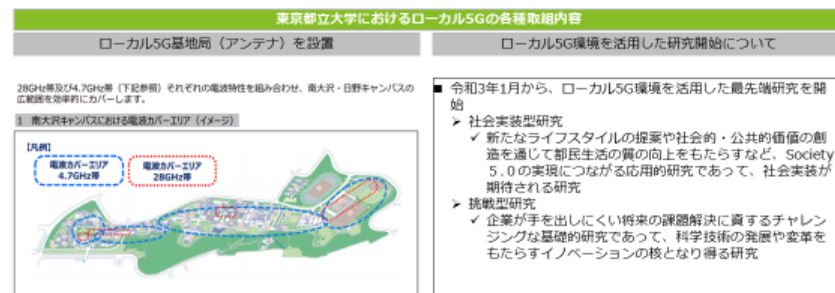
出典) 国土地理院「国土地理院HP 地図・空中写真閲覧サービス」、八王子市「八王子市HP」、東京都公園協会「東京都公園協会HP」を基に事務局作成

- 対象範囲を駅から1.0km圏内から1.5km圏内へ拡大

2-4 情報・その他の現況(11)ローカル5G

39

・東京都立大学においてローカル5Gが整備されるとともに、次世代AI・IoTロボティクス等の先端分野において社会実装が期待される研究が始まっている



出典) 東京都「東京都都市整備局 HP『東京都立大学において、ローカル5G事業を開始』」、東京都「スマート東京実現戦略」

- 公園・緑地やローカル5G等の情報を追加

実施計画改定ポイント (2/8)

3章では、本年度実施したワークショップやインタビューの概要・結果を新たに追加します

3章 地域のニーズ

改定ポイント

✓ ワークショップやインタビューの概要・結果を実施回数分掲載

- 3-1 WEB調査
- 3-2 ワークショップ
- 3-3 事業者インタビュー
- 3-4 その他

3-2 ワークショップ(1)概要

54

・今後の社会実装を見据え南大沢と接点を持つ人を対象に、ワークショップを実施した

	日程	対象者	参加人数(人)	実施形式	実施目的・議論内容
第1回	2021年 8月28日(土)	学生 勤務者	12	オンライン	南大沢の課題やニーズを明確化・整理 ✓活用シーンの確認 ✓課題・ニーズに関する議論
	2021年 11月6日(日)	シニア	17	対面	
第2回	2022年 2月1日(火)				
第3回	2022年 3月4日(金)				

3-2 ワークショップ(2)結果①モビリティ領域

55

・2021/8/28(土)及び2021/11/6(土)ワークショップでは、活発な議論が行われ、多様なご意見をいただいた

	現状	課題・ニーズ
勤務者	<ul style="list-style-type: none"> 車道や駐車場の整備されており、住居であれば簡単な買い物でも車で移動することが多い。 バス利用者は高齢者がほとんどである。 イベントがあっても移動手段がなければ人は集まり辛いと思われ、移動手段の拡充はまちの活性化に繋がると思う。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> バス停まで高低差があり、特に高齢者にとって、バス停に行くまで大変である。 バス乗降環境が不十分で、乗るべきバスが分からない。 既存の交通情報は駅周辺にしかなく、駅を介さない移動がしづらい。 <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者にとってシェアサイクルは安全性のリスクがあり、乗りやすいように、緩い・速い・車間をあけたい。 バス線が薄いため、ひとまとめで移動できると思う。 高低差がある他府県では、電動シェアサイクルを提案しているが、南大沢にはまだ検討していない。(電動であることは必須)
学生	<ul style="list-style-type: none"> 駅前で買い物や食事などの活動が完結できる。 バス乗車をあまりしたことが無い。住居以外ではあまりバスを使わないのではない。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> バスが小回りに運用されており、行きたいところに行き辛い。 地元住以外バスを利用していないと想定する。 カーシェアのステーションが近くに無く、車を借りにくい。 <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアサイクルや電動キックボードシェアリング、バスが大学の周辺まで通ると良い。 高低差があり移動が辛いため、歩道環境の整備や電動シェアサイクルの導入が求められる。 バスの初期費用が安くならない。また巡回バスがあると良い。
シニア	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が少なく、駐車場から施設まで距離がある 徒歩の距離が短い 徒歩が多く、歩き辛い 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回交通が不足している 乗降が不安なところがある <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 南大沢は歩道が各団地を繋ぐことで、散歩を兼ねた小型モビリティがあると便利だろう。(例：セグウェイ、電動、小型ドローン) 幼かりやすい運用のツールがあると良い 小回りで小回りの利く、途中下車可能な巡回バスが低価格で走ると良い 高齢者の移動補助として、歩道が整備されている地域での電動車いす活用が望ましい

3-3 事業者インタビュー(1)概要

60

・テーマごとに今後の社会実装を見据え、南大沢において事業を展開するプレーヤーに対して、インタビューを実施した

	時期	対象	実施形式	インタビュー内容
モビリティ	2021/9	バス事業者	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ✓現状の取組・ニーズ・課題 ✓課題への対応
	2021/9	物流事業者	オンライン	
まちの賑わい	2021/10	商工会議所	対面	
情報	2021/12	情報サービス事業者	オンライン	
	2021/9	NPO法		
自然環境・エネルギー	2021/9	エネルギー		
	2021/9	近隣教育		
その他	2021/9	医療・福祉		
	2021/9	公的防災		

3-3 事業者インタビュー(2)結果①モビリティ・物流

61

・事業者へのインタビュー内容を基に、課題・ニーズ、先進技術による解決の方向性を整理した

	課題・ニーズ	先進技術による解決の方向性	課題・ニーズ	先進技術による解決の方向性
モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> 収集車などにより各所の集荷に対応 自動運転車は導入は検討しているが、自動運転車は安全な運転が求められる(自動運転車へのAI/カメラ/センサー) 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車の導入 Max5を活用したAI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者は情報機器やスマホの操作が苦手 駅や施設で買い物や食事などの活動が完結できる 住居以外ではあまりバスを使わないのではない 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車を活用した物流サービスの導入 小回りで小回りの利く、途中下車可能な巡回バスが低価格で走ると良い 歩道が整備されている地域での電動車いす活用が望ましい
まちの賑わい	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催の場において、乗降と待合スペースの確保が必要である 既存の交通情報と連携して、多くの人による移動の利便性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したカスタマイズの提供 AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 駅で徒歩や自転車、電動アシスト自転車、電動キックボードなどの移動手段が利用できる 自動運転車による移動手段の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車を活用した物流サービスの導入 小回りで小回りの利く、途中下車可能な巡回バスが低価格で走ると良い 歩道が整備されている地域での電動車いす活用が望ましい
情報	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車による移動手段の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車を活用した物流サービスの導入
自然環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車による移動手段の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車を活用した物流サービスの導入
その他	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> Max5を活用したシステムは導入済み AI/カメラ/センサーによる自動運転車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車による移動手段の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転車を活用した物流サービスの導入

* 上記は、インタビュー当時の内容であり、2022年1月より他エリアにおいて、ショッピングモールや飲食店と連携した外出需要の創出やオフピーク利用等を目的としたMax5によるサービス提供を開始し、課題の解決に取り組んでいる

実施計画改定ポイント (3/8)

4章では、南大沢の将来動向（「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」）を追加します
5章では、本年度深掘りしたニーズや現況、将来像を基に地域の課題を再整理します

4章 地域の将来動向・計画

改定ポイント

- ✓ 南大沢の将来動向（「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」）を追加

- 4-1 交通（モビリティ）の将来動向・計画
- 4-2 まちの賑わいの将来動向・計画
- 4-3 情報・その他の将来動向・計画
- 4-4 将来動向・計画のまとめ

5章 地域の課題

改定ポイント

- ✓ 本年度深掘りしたニーズや現況、将来動向を基に地域の課題を再整理

- 5-1 交通（モビリティ）の課題
- 5-2 まちの賑わいの課題
- 5-3 情報の課題
- 5-4 その他の課題

4-1 交通（モビリティ）の将来動向・計画(3)南大沢 73

・「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」のモビリティ分野においては、駅前と住宅地間のアクセスの強化として、新たな移動アクセスの構築及び交通環境の構築を推進している

「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」におけるまちづくりの将来像（モビリティ領域）

将来像2 ～スマートなまち～

先進技術活用や産学公連携により、新たな生活様式に対応した持続的で発展が可能な環境が醸成されるまち

◆ 先進技術活用や産学公連携の推進

良好な都市基盤や都市地等を活用し、東京都立大や民間事業者と連携した5Gなどの先進技術活用や産学公連携の取組を進めることで、新しい働き方への対応と地域の課題を解決するとともに、研究者・学生による起業等を推進する。

○イノベーションを創出する先進技術を取り入れたまちづくりの推進

- 東京都立大学や研究所の集積を生かした産学公連携の取組の推進
- 東京都立大学、研究所等と連携し、技術開発やスタートアップ支援等の取組を推進
- 都市地を活用し、5Gなどの先進技術の導入、サテライトオフィス、シェアオフィス、ビジネスマッチング、起業等ビジネス環境の整備を推進

○長寿社会を実現する取組の推進

- 高齢、福祉、介護社会を見据え、ICT技術などを活用した遠隔診療などにより、住み慣れたまちでいつまでも健康に豊かな暮らしを実現できる取組を推進

◆ 駅前と住宅地の間のアクセスの強化

駅前ではより一層の拠点性を高めるために、駅前への円滑なアクセスが確保されるよう、住宅地とのネットワーク化を進め、住み続けられる環境づくりを推進する。

○誰もが移動しやすいネットワークの形成

- バスやタクシー、シェア交通、自転車など先進技術の組合せの促進
- 自動運転バス等のパーソナルモビリティの活用、自動運転電気自動車、MaaS・ITSによる新たな移動手段等の導入を推進

出典 東京都「南大沢駅周辺地区まちづくり方針（素案）」（2021.2.18）

5-1 交通(モビリティ)の課題 82

現況・ニーズ

- 南大沢駅前からバス停まで道路面に対して高低差が存在している
- 駅周辺は丘陵地となっており、高齢者や身障者等にとって負担が大きい
- 商業、病院等は駅周辺に集中し、大学、公園等は3km圏内に複数立地
- 駅南側の住宅地では特に高齢化が高い割合

特徴

- 電動シェアサイクル等多様な移動手段へのニーズがある
- 駅周辺は交通手段の8割が徒歩となっている
- バス、タクシー運転手の高齢化も進行しており、輸送人員が懸念される
- 移動時間短縮を目的とした横移動の提供を望んでいる

交通手段

- 駅前交通ターミナルは、バスの発着が概ね30分間隔かつ、リアルタイムのバス案内情報板等は未設置であり、円滑な乗り換えがやしづらい
- 居住者や来街者は電車、自転車、徒歩、バスの移動と、乗降場所、駐車場の混雑に不便を感じている

将来動向

- 東京都では、自立走行可能なモビリティ等や5G・BDの実証実験を想定
- 八王子市では、移動しやすい仕組みを検討するとともにバス路線網の形成や使いやすい移動情報の充実を想定
- 南大沢では、駅前ではより一層の拠点性を高めるために、駅前への円滑なアクセスが確保されるよう、住宅地とのネットワーク化を進め、住み続けられる環境づくりを推進

モビリティの課題

場所・人に合わせた移動手段を最適に選択できていない

ラストワンマイルの移動

- ・ラストワンマイル解消に向けた移動環境の整備が進んでいない
- ・住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保が困難である
- ・丘陵地の高低移動の負担が大きい

エコかつ多様な移動ニーズ

- ・駅周辺において、利用者に応じた個別最適な移動がない
- ・横移動が整備されておらず効率的な移動ができない
- ・環境に配慮した移動手段が少ない

移動サービスの利便性向上

- ・鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換が阻害されている

既存交通の維持

- ・担い手の高齢化に伴いサービス提供機会が減少している

- ・「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」における交通・まちの賑わい・情報観点の内容を掲載

- ・インタビューの概要と結果（全9社分）を掲載

実施計画改定ポイント (4/8)

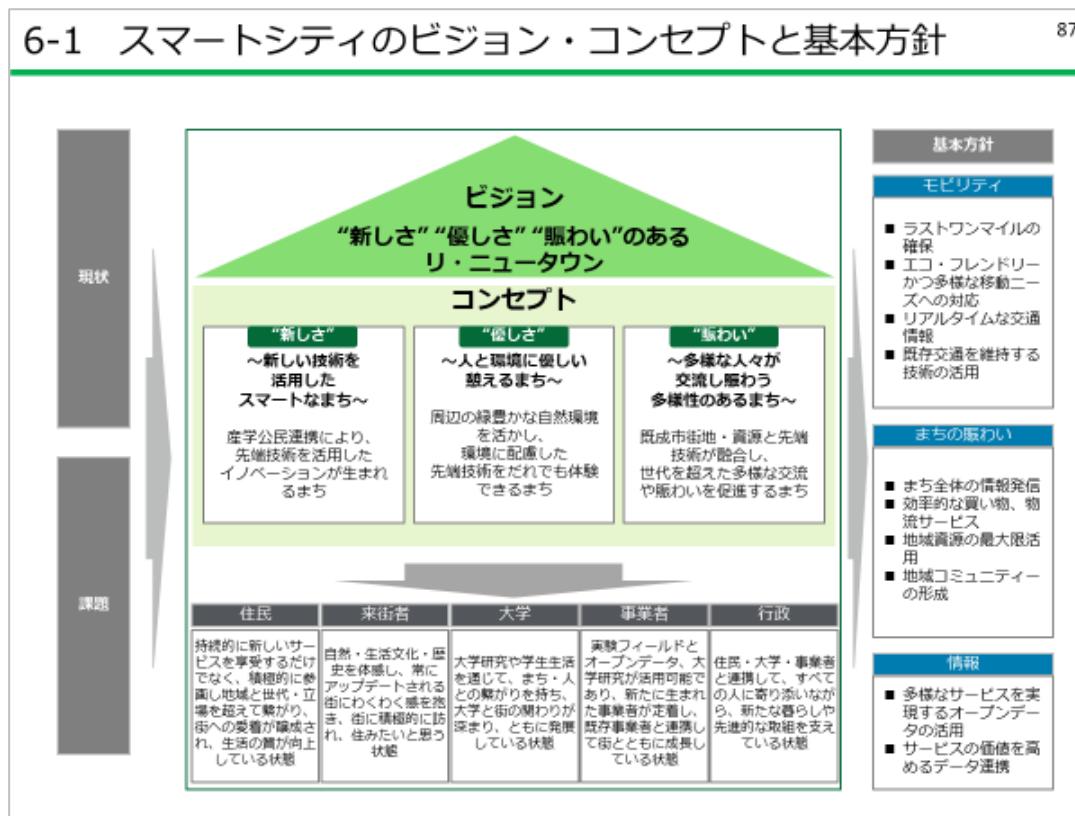
6章では、本年度版として策定したスマートシティのビジョン・コンセプトを掲載します

6章 スマートシティの将来像と基本方針

改定ポイント

- ✓ 本年度版のスマートシティのビジョン・コンセプトを策定

6-1 スマートシティの将来像と基本方針



- 昨年度版のスマートシティの目標に代わり本年度版のスマートシティのビジョン・コンセプトを策定

実施計画改定ポイント (5/8)

7章では、モビリティ・まちの賑わいの短期施策の具体イメージと、具体イメージ実現に必要なICTインフラ案を追加します

7章 先端技術を活用した具体施策 (案)

改定ポイント

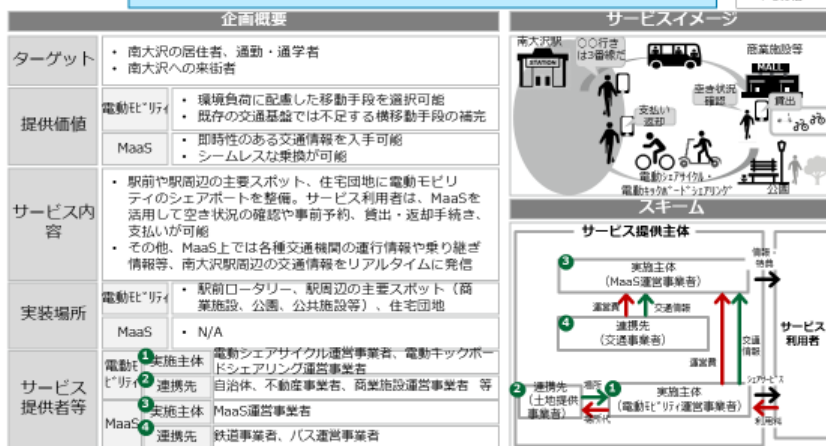
- ✓ 短期施策の具体イメージを追加
- ✓ モビリティ・まちの賑わいの一部短期施策に必要なICTインフラ案を追加

- 7-1 交通 (モビリティ) の具体施策 (案)
- 7-2 まちの賑わいの具体施策 (案)
- 7-3 情報の具体施策 (案)
- 7-4 その他の具体施策 (案)

7-1 交通(モビリティ)の具体施策(案) (3)展開方法(案) (案3) MaaSによる複数の交通情報・手段の提供施策 97

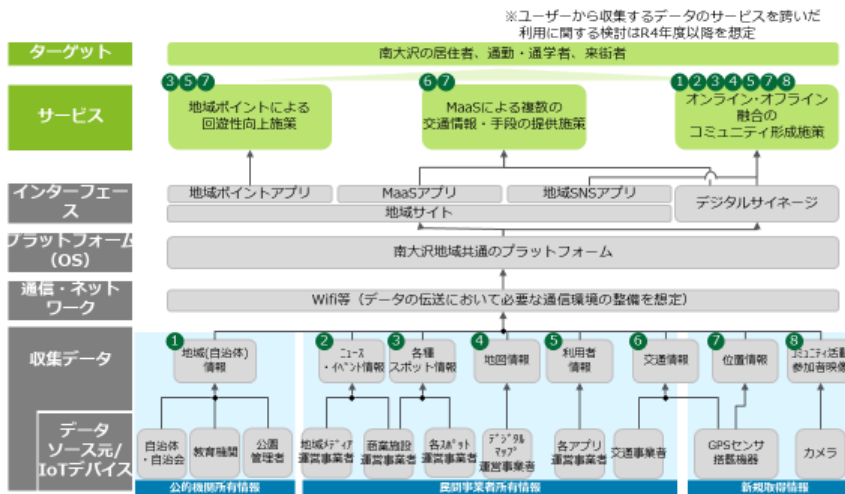
・電動シェアサイクル、電動キックボードシェアリング、MaaSを活用した施策の展開イメージは以下の通りである

方向性 (案) MaaSを活用した多様な決済手段を持つ電動シェアモビリティサービスの提供や、各種特典・サービスの提供、交通情報の発信



7-3 情報・その他の具体施策(案)(3)展開方法(案) 例1~3サマリ 121

・まちの賑わい領域及びモビリティ領域における社会実装施策の実現に必要なICTインフラの議論を踏まえ、ICTインフラの方向性(案)として、南大沢共通のプラットフォームの整備及び地域共通サイトの設立を検討した



・ 短期施策数分を作成

・ モビリティ・まちの賑わいの3つの短期施策に必要なICTインフラ案を掲載

実施計画改定ポイント (6/8)

8章では、本年度実証実験の内容・検証結果を追加します

8章 実証実験

改定ポイント

- ✓ 本年度実証実験の内容・検証結果を追加

8-1 令和3年度実証実験

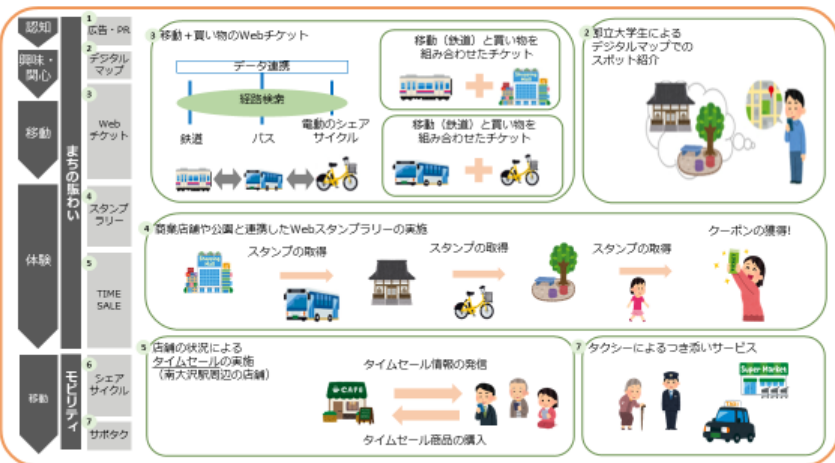
8-2 令和2年度実証実験

8-1-1 令和3年度実証実験の概要

130

・南大沢への訪問・外出を促進し、エリア内の回遊性向上による活性化を狙い、まちの賑わいやモビリティに関連するwebスタンプラリーやMaaS、シェアサイクル等による実証実験を行った。

目的	公共性	<ul style="list-style-type: none"> 訪問・外出目的創出 エリア内の回遊性向上 	期間	<ul style="list-style-type: none"> (モビリティ実証) 2021年11月1日～2022年1月31日 *サボタクは年末年始を除く (まちの賑わい実証) 2021年11月1日～2021年11月30日
	事業性	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装を見据え、施策の持続性を検証 		

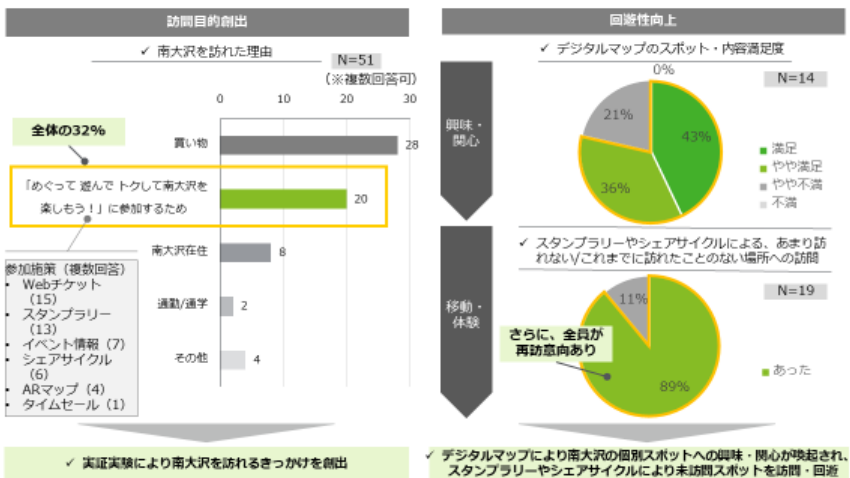


- ・ 実証実験の内容（概要や施策詳細）を掲載

8-1-3 実証実験結果(2)目的達成の有効性

133

・ 実証実験参加者アンケートから、実証実験が新たな来街の需要喚起及び地域スポットの興味・関心喚起、未訪問スポットへの訪問・回遊へ寄与したことがうかがえた



- ・ 実証実験の結果を掲載

実施計画改定ポイント (7/8)

9章では、本年度再整理した施策をもとに実現イメージとロードマップ、具体施策一覧（案）と将来イメージを更新します

9章 実現イメージとロードマップ

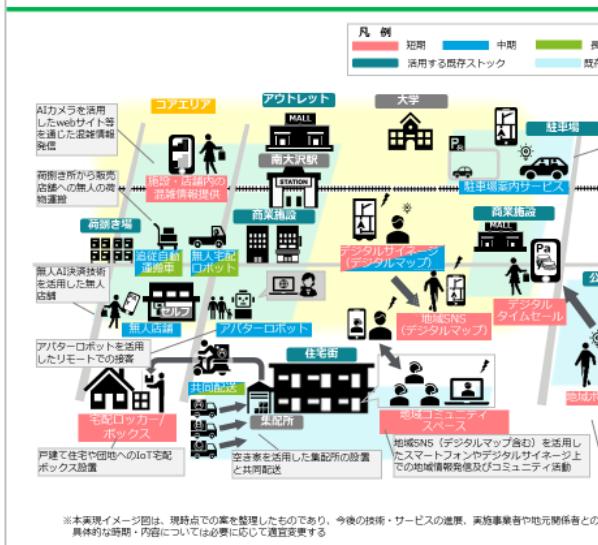
改定ポイント

- ✓ 本年度再整理した施策をもとに実現イメージとロードマップを更新
- ✓ 本年度時点の具体施策一覧と将来イメージを更新

- 9-1 交通（モビリティ）の実現イメージとロードマップ
- 9-2 まちの賑わいの実現イメージとロードマップ
- 9-3 情報・その他の実現イメージとロードマップ
- 9-4 南大沢スマートシティの具体施策一覧（案）

9-2 まちの賑わいの実現イメージ

145



9-2 まちの賑わいのロードマップ(1)

146

年度	短期				中期 ~2030 (R12)	長期 ~2040 (R22)
	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)		
地域コミュニティ サイト・スペース		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
地域SNS		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
デジタル タイムセール		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
デジタルマップ		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
デジタルスタンプ ラリー		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
デジタルタイムセ ール		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
地域ポイント		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
XR活用		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装
店舗、施設内の デジタルタイムセール		協議会議討	事業性 調査	検証・ 分析	実証 準備	社会実装



- 本年度再整理した施策をもとにモビリティ・まちの賑わい・情報の実現イメージを更新
- 本年度再整理した施策をもとにモビリティ・まちの賑わい・情報のロードマップを更新
- モビリティ・まちの賑わい・情報の施策を合わせた将来イメージを掲載

実施計画改定ポイント (8/8)

10章では、実施・運用体制構築にあたっての論点や、公民学等のスマートシティ組織の実施・運用体制の役割(例)を追加します。
11章では、本年度の議論を踏まえて、協議会としての今後の課題を掲載します

10章 実施・運用体制(例)

改定ポイント

- ✓ 柏の葉、つくば市、某地方自治体の組織の役割を例示

- 10-1 実施・運用(概要)
- 10-2 実施・運用体制の役割(例)
- 10-3 実施・運用体制の分類(例)

11章 今後の課題

改定ポイント

- ✓ 協議会・部会での議論を踏まえて課題を更新

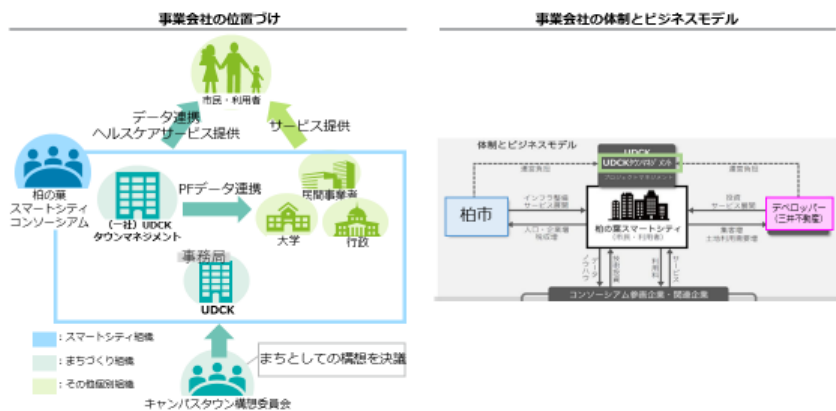
- 11 今後の課題

10-3 実施・運用体制の役割(例)①柏の葉



167

・柏の葉においては、まちづくりに係る事業体として、①任意団体UDCK、②一般社団法人UDCK、③一般社団法人UDCKタウンマネジメントの3団体が取組みを推進。キャンパスタウン構想委員会の決議に基づき、スマートシティとしての取組みはUDCKが事務局を務める柏の葉スマートシティコンソーシアムにて推進。コンソーシアム内にてUDCKタウンマネジメントはスマートシティの分野横断サービス及びそのPF運営の役割を担う



まちづくりの具体的な取組はキャンパスタウン構想委員会にて実施
柏の葉スマートシティコンソーシアム内にて各事業者がスマートシティの取組みを推進。共通機能となるデータPF運営は第三者機関としての事業体(UDCKタウンマネジメント)が担う

出典) 柏の葉スマートシティコンソーシアム「柏の葉スマートシティ実行計画」(2020.3)等を基に事務局作成

- ・ 柏の葉、つくば市、某地方自治体の組織の役割をスキームと「戦略」・「実行支援」・「実行」のマッピングで例示

11 今後の課題

171

サービスの社会実装	持続可能なスキームの構築(短期施策)	・ 社会実装に向けて採算性確保のためのスキーム検討及び関係者巻き込み
	多様なシーンにおいてまちでの体験を向上させるサービスの検討	・ 日常時及び非日常時ともにまちでの体験を向上させるサービスの検討
データプラットフォーム等ICTインフラの整備	データプラットフォームの持続可能な運営スキーム検討	・ 持続可能なデータプラットフォーム運営のための収益化ないしは費用補填の仕組み検討
	データプラットフォーム及びデータの安全管理・運営	・ データプラットフォーム及びデータ(個人情報含む)の安全管理・運営方法策定
事業体の体制	令和5年度以降の組織形態	・ 令和5年度以降の組織体の主体・構成員及び組織形態を検討
	多様なプレーヤーが参画しやすいフィールドや規制緩和の推進体制	・ 多様なプレーヤーが参画しやすくなるようインフラ・ルール面の整備を担う体制の検討

- ・ 協議会・部会での議論を踏まえて「サービスの社会実装」・「データプラットフォーム等ICTインフラの整備」・「事業体の体制」を課題として整理